

# EPA THE EIKO ALUMNI 91

2019年4月1日発行 ©2019 発行人:栄光学園同窓会・山田宏幸 編集人:高橋英治 印刷所:ナガシマ印刷工房  
発行元:栄光学園同窓会 〒247-0071 鎌倉市玉縄4-1-1 ☎0467-44-8875 <http://www.eikoalumni.org>

## 67期生が卒業 187名が新会員に！

2019年3月1日、栄光学園第67期生の卒業式が行われ、同窓会に新たに187名が加わりました。祝賀会では同窓会を代表して山田会長より祝辞を述べ、卒業生に「同窓会入会案内」と「EACON入門(操作手順説明並びにID、パスワード)」を配布するとともに記念品としてウッ드의シャープペンを贈呈しました。シャープペンにMEN FOR OTHERS WITH OTHERSと同窓会ホームページのURLがプリントされています。

## 第10回栄光OBフォーラム開催報告

第10回栄光OBフォーラムが12月15日栄光学園小講堂で開催されました。今回のOBフォーラムのタイトルは「ロシア・ワールドカップは世界を変えるか！」というもので、サッカージャーナリストの18期大住良之さんが基調講演を行い、引き続きスポーツ医学が専門の13期福林徹さん、ロシアビジネスコンサルタントの18期菅原信夫さん、そして特別ゲストとして大住さんと親交があるスポーツ文化評論家玉木正之さんを交えたパネルディスカッションが行われました。会場には18期の方々を筆頭に70名を超える来場者があり、場所を2階の聖堂ホールに移しての懇親会にも多くの方々に参加いただきました。

パネルディスカッションのファシリテーターを務めていただいた菅原さんの記事を4ページに掲載しますのでご覧ください。

## 2019年5月11日(土)、12日(日)栄光祭開催

### 〈同窓会定期総会のお知らせ〉

2019年度の同窓会定期総会は5月11日(土)12時より栄光学園アロイジオ会館会議室にて行われます。各期委員並びに支部委員の皆様のご出席をお願いいたします。昼食は用意します。

### 〈追悼ミサ〉

栄光祭1日目、5月11日土曜日の午前9時30分より、栄光学園聖堂にて、この1年の間に亡くなられた教職員、卒業生の皆様の追悼ミサを行います。3ページをご覧ください。

### 〈OBの部屋 ALUMNI〉

栄光祭開催中の両日、今年もOBの部屋ALUMNIを開きます。会場は聖堂ホールです。お飲みもの、お菓子、サンドイッチを提供しておりますのでどうぞお寄りください。

## 同窓会名簿について

2014年度に発行された同窓会会員名簿を最後に製本された形での名簿発行は休止されています。今後、個人情報保護法の施行以降にどのように扱うべきか、2018年度には特別委員会でこの問題を論議し、EACONの名簿機能を用いた名簿の運用について5月11日の総会に諮る予定です。

10ページの特別委員会からの報告をご覧ください。

### 主な目次 No.91

学園からのメッセージ	2	OB便り	18
同窓会会長ご挨拶	2	同期会	21
同窓会の行事案内活動等	3	支部活動	32
特別委員会報告	10	歴史文学散歩	37
母校の様子・恩師	15	訃報・お知らせ	40

## 学園からのメッセージ

### ご挨拶

栄光学園中学高等学校校長 望月伸一郎

同窓会のみなさまには、日頃より学園の教育活動にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

新校舎ができてから、早いもので丸2年がたちました。まだ2年しかたっていないともいえますが、旧校舎での学校生活がどのようなものだったかを思い出そうとしても、もはや少しばかり遠い記憶のような気がいたします。仕立てのいいオーダーメイドの新しい服は、身体に合わせて作り込んであるので、身に着けたときから違和感がまったくないのだそうですが、2階建てのこの校舎は、私たちの学校教育を納める器として本当に最適なものだったのだと、あらためて実感しております。

校舎建設にあたり多大なるご寄付をいただいた卒業生のみなさまに、あらためて御礼を申し上げます。

生徒たちのなかでも旧校舎を知っている学年は、この4月からは高校3年生と高校2年生だけになりました。高校1年生以下は、旧校舎をまったく知りません。知っているとはいえ高校2年生でも、旧校舎にいたのはわずか4ヶ月だけです。

生徒のみならず、その昔は外壁が茶色のタイル貼りだったことなど、教職員のなかでも知っている人はごくわずかです。

教職員の世代も変わりました。もちろん田浦時代を知っている人は、もうだいぶ前から教職員のなかには誰もいません。そればかりか、かつて生徒はみな白トレパンにはきかえていたこと、定期試験は期末試験しかなかったこと、イエズス会の神父様たちが教職員のなかにかくさんいたことですら、自身の体験として知っている教職員はもう本当に数少なくなっています。

学園の新しい歴史が積み重なっていくということは、過去の姿を当事者として体験していた人が、ますます貴重になってくるということです。新校舎になり新時代をむかえた栄光学園にとって、田浦時代の資料など学園が保存している数多くの品物や写真などを整理し、必要に応じて検索や閲覧ができる形にする必要を最近強く感じています。

今回、同窓会役員様のご厚意で、アロイジオ会館の1階に保存している学園資料の整理作業に、卒業生有志の方々がお力をお貸しくださるとのお申し出をいただきました。本当にありがとうございます。教職員のなかにも古い栄光を知る者が少なくなるなか、かつての時代を生徒として体験されたみなさまのご協力は、学園としても本当に貴重なものです。この場をお借りして心より御礼を申し上げます。

また、デザイナーの川村貞知様(37期)に制作をお願いいたしましたが、新校舎の聖堂軸にアーカイブの展示ボードを設け、田浦時代の写真や大船移転当初の写真などを展示し、学園の歴史をふり返ることのできる場所を作りたいことを計画しています。今年度中には完成できる予定です。卒業生の方が母校をお訪ねになったとき、かつての校舎や学校の様子にふれることのできるコーナー、あるいは現役の生徒たちが、学園のルーツをたどることのできるコーナーになればと思っています。

学園の歴史が重なっていけばいくほど、同窓会のみなさまとの繋がりは大切にすべきであると考えています。今後ともよろしく願いいたします。

### 同窓会長ご挨拶

栄光学園同窓会会長 山田宏幸 (30期)

本号は、皆さまにお届けする平成最後の“THE EIKO ALUMNI”となります。また、5月には新たな元号となって初めての定期総会を開催する予定です。平成から新たな時代への先取りをするかのように、学園は、法人合併や創立70周年の新校舎などを経て環境も大きく変わり、新たなステージへと進んでいるように感じられます。

このような時代の変革の中、70周年事業後の同窓会は、足元を固めるべく、過去からの懸案事項に対応してきました。まず、全面刷新したホームページの運用を昨年6月から開始し、同窓会の情報を全ての会員がいつでも得ることが出来る広報の環境を整えました。今後、ホームページ運営委員会を中心に、さらにコンテンツを充実させるとともに機能拡充の必要性なども検討し、会員の皆さまのニーズに応えていこうと思います。また、ニーズを把握するための“広聴”についても手法を含め検討を進め、皆さまのご意見をお聞きすることが出来る環境を整えていきたいと考えています。ホームページ運営委員会をさらに増強するため、「我こそは」と思われる方は、同窓会事務局までご連絡ください。

次に、平成30年度の重点課題である“会員名簿とEACON”については、特別委員会を設置し、同窓会の根幹である会員名簿情報について集中的に検討、議論を重ねてきました。特別委員会は、執行部、幹事に29期から51期までの有志メンバーを加え、月1回程度開催しました。会員名簿のあるべき姿、データ充実の方策、会員間データ共有などを議論し、これまでに整理した一定の結論を5月の定期総会で議案として提起する予定です。また今後は、議論を深めるに至らなかった同窓会としてのデータベース活用などについても、検討を進めていく必要があると考えていま

す。

さらには、学園アーカイブの整理についても、ワーキンググループを立ち上げ、作業をスタートさせたところです。学園や学園のOB教員等とも協力し、整理を進めていこうと考えています。また、同窓会アーカイブの検討などもありますので、興味がある方は、是非ご参加ください。

さて、冒頭でも触れましたが、新たな時代を迎え、時代も学園も少なからず様変わりしていく環境の中で、今後本会はどうあるべきかを改めて模索する必要があると私は感じています。会創設当時とは会員数も潜在的パワーも大きく異なる同窓会ですが、その仕組みや位置付けは、変化こそあるものの基本的には創設時からの踏襲であると捉えています。学園、後援会との関わり方や同窓会の位置付け、同窓会のあるべき姿、使命、社会的役割など、継続・継承すべきものと変えるべきものを見極め、変えるもの、さらには新たに取り入れるものには勇気をもって取り組み、前に進み、さらに本会を発展させるべきではないかと考えています。全ての本会会員が「栄光学園同窓会の会員で良かった」と思える会に少しでも近づけるよう、今後、皆さまのご意見などを踏まえながら、検討していきたいと思っております。

来たる5月11、12日には、栄光祭が行なわれます。例年通り、OBの部屋を開設する予定ですので、お誘い合わせのうえ是非お越しく下さい。また、5月11日に予定する2019年定期総会においては、重要な懸案事項を議題とするとともに、役員改選の年次でもありますので、多くの委員のご出席とご発言を賜りますようお願いいたします。

過去を大切に、栄光のDNAを継承しつつ、より広い視野、未来志向で“Men for Others, with Others”を実践できるよう、学園、後援会、姉妹校同窓会とも協力しながら、躍動感あふれる同窓会にしていければと思います。“人を繋ぐ、人が繋がる同窓会”を実現させるため、会員の皆さまには、より一層積極的に同窓会活動にご参加いただけますよう、よろしくお願いたします。

## 同窓会の行事案内・報告

### 追悼ミサのご案内

大島弘尚（14期）

栄光祭初日、5月11日土曜日9月30分より、学園聖堂にて、この1年に亡くなられた教職員、卒業生の追悼ミサを行います。

亡くなった先生方はギユンタ・ケルクマン先生(英語)、小崎次郎(ブレナン)先生(理科)人見紀一先生(国語)の3名です。同窓会事務局に本年2月までご連絡あった卒業生は

1期から51期までの32名です。

ご連絡のつくご遺族様にもご連絡はしてありますか、多くの卒業生のご参列をお願いいたします。ミサ後、アロジジオ会館ホールにて、故人らを偲ぶ茶話会も用意いたします。平服にてご参加下さい。

### 上智学院追悼ミサに参列

大島弘尚（14期）

2018年11月10日、イグナチオ教会での「学校法人上智学院物故者追悼ミサ」に2017年に続き参列しました。一昨年より栄光学園が上智大学の学校法人と一緒にになったため、カトリックの「死者の月」である11月に学校法人上智学院の関係者の追悼ミサが行われています。

栄光学園の旧教員として、ケルクマン先生(英語)・小崎次郎(ブレナン)先生(理科、元理事長)とこの1年間亡くなられた卒業生を追悼いたしました。十数名のイエズス会神父による共同司式でした。祭壇中心の主司式は佐久間神父(上智学院理事長)、李神父(倫理、前栄光学園理事)、萱場神父(倫理、前栄光学園理事長)も祭壇を囲み追悼ミサは行われました。上智大学聖歌隊とパイプオルガンの演奏のなか、全参列者による献花により追悼行事は無事終わりました。

このイグナチオ教会のクリプタ(地下墓所)の一画は、東京周辺で亡くなられたイエズス会神父様の納骨堂となっています。前々回の同窓会誌89号(昨年4月)で栄光学園の元教員でここに納骨されている神父様の名前を報告しましたが、私の調査不足のため、見落とししていた方々がおりました。改めて現時点で判明した、ここに葬られている栄光学園元教員の神父のお名前をアイウエオ順に敬称を省略し、教会の表示に従い、記載します。イエズス会関係者はS室にまとめてありますが詳しい箇所は、教会事務所で教えていただけます。

アイレンボッシュ・ヨゼフ、安藝瑛一、生熊秀夫、ウルフ・ヘルムト、大木章次郎、オガンド・フランシスコ、ガルシア・アントニオ、ケルクマン・ギユンター、小林純一、河野純徳、小崎次郎(ブレナン)、シュトルテ・ヨハネス、薄田昇、土屋吉正、富田優、中村工、バリー・ジェラード、ピタウ・ヨゼフ、兵頭逸郎、ヒーニー・フレドリック、フォーブス・ロバート、フォス・グスタフ、ヘルウェク・ハンス、ペレス・レデスマ、ペレットイ・ピエトロ、ホートン・ラッセル、南木久治、森脇隆夫、吉川洗、リーチ・ポール、

## 「栄光OBフォーラム」に寄せて

菅原信夫（18期）

2018年12月15日、栄光学園小講堂にて「栄光OBフォーラム」が開催されました。筆者は当日、パネルディスカッションのモデレーターを務めさせていただいた流れで、今回のイベントのご報告とロシアにまつわる話題を書かせていただきます。

今回のフォーラムは「ロシア・ワールドカップは世界を変えるか!」という、スポーツとロシアをダブルテーマとしたものでした。両要素とも、栄光卒業生にはあまり馴染まないとも思えるのですが、このテーマでのフォーラム開催を快諾いただいた同窓会には改めてお礼を申し上げます。

この企画の原点は、2018年7月にワールドカップ取材のためにロシアに長期滞在中だったサッカー評論家大住良之さんと、ロシアビジネスコンサルタントの菅原がモスクワで出会ったことに遡ります。

共に18期で、サッカー部に在籍した仲間として食事を共にしながら、サッカーについて、ロシアについて語るうちに、いつしかこんな話題を二人で独占するのはもったいない、友人たちにも少し広くアピールできないものか、というイベントの相談になりました。

帰国後、栄光同窓会に相談に出向いた菅原は、同窓会の山田会長、増木副会長からちょうど2018年度のテーマを探していた「栄光OBフォーラム」で取り上げようというご提案を受け、今回のフォーラムが急遽実現する運びとなりました。

早速、パネルディスカッションが企画され、登壇者の選択に入りました。同窓会会長、副会長をはじめとする主催者側とスポーツジャーナリズム業界の先駆者である大住さんのおかげで、福林徹先生(13期)、玉木正之さんはすぐに決まり、そこに大住さんご自身と菅原が参加することが決まりました。

具体的なフォーラムテーマは、大住+菅原にて骨子を作り、山田+増木両氏の見解を加味して、「ロシア・ワールドカップは世界を変えるか!」に決定、具体的な準備を始めました。

12月15日のフォーラム当日は、まず大住さんが講演し、今次ワールドカップ運営の面白さや日本代表団にまつわる逸話など、取材活動から垣間見た話題の紹介がありました。取材活動そのものも、危険と隣り合わせだった南アフリカ大会、ブラジル大会に比べると、ロシア大会の第1の特徴は意外なことに「安全性」。スタジアム内外から、移動中の交通機関、宿泊地の民宿まで、自身の身の回りについてなにも心配する必要がなかったことは特筆にあたいする、とのことでした。

今回のワールドカップにおけるもう一つの特徴は、ファンIDの導入とファンに対する各種サービスの無償提供により、試合見学者の観戦コストが大きく低減した点。大住さんは、今回ロシアで使用したファンIDの実物を持参、また登壇者全員に特別に作成されたカードをプレゼントしました。今回の大会でこのIDカードは、大きな仕事をしたとの彼の感想は、年間なんどもロシアに行き来する菅原からみても全く同感です。まず、海外からの訪問者に対して入国時にはVISAとして機能します。通常、大変面倒なロシアへの入国手続きがW杯期間中は(その後、年末まで効力が延長された)IDカードで簡単に済ませることができました。また、試合地間の移動手段や、試合地での市内交通は、このIDカードを示すことで、無料で利用できました。大住さんの仲間のサッカージャーナリストからは、今後もW杯はいつもロシアで開催、という妙案(?)も出ているとか。やはり、これはロシアが国として大会に関与したおかげでもあり、そうそうどこの国でもやれることではないと思われます。

大住さんの基調講演のあとは、パネルディスカッションに入りました。登壇者は、栄光13期生で東京有明医療大学特任教授の福林徹先生、スポーツ文化評論家の玉木正之さん、さらに大住さんを加えて、合計3名のパネルとなりました。モデレーター兼ロシア問題コメンテーターとして、菅原が司会をさせていただきました。

このパネルでは、最近のスポーツ界全体を揺るがすドーピング問題がまず論議されました。陸上競技や水泳などオリンピック競技におけるドーピングが大きく取り上げられますが、サッカーなど、それ以外のスポーツでも実態は同じであって、今回のW杯サッカーでも、その検査は大変厳しいものがあったそうです。

最近のドーピングケースの増加は、検査方法の精



パネルディスカッションの様子

密化によるところが大きく、従来の方法では探知できなかった薬物も、最近では検査で引っかかるとの指摘が福林先生からありました。常時服用しているような風邪薬でさえ、ドーピング検査では問題視されることもあり、今後のスポーツでは選手だけでなく、コーチ、監督など周囲の関係者全員のドーピングについての認識が深まる必要がある、というご指摘でした。また、旧ソ連や東ドイツのような国家を挙げてスポーツ選手を育成する場合、選手の健康や将来を無視して、現状でのベストを求めるあまり体制として薬剤を使用していた時代があったのですが、現在は国家がスポーツビジネスに置き換えられて、再び選手を消耗品とする動きが見えかくれする時代にはいったという警笛もありました。年が開けると、フィギュアスケートのロシア女子選手から、現在も薬剤摂取が続いているかのようなコメントが報道されたり、引き続きロシアのドーピング問題はあとを引いているようです。

玉木氏からは、ご自宅が栄光に隣接する玉縄のため、いつも栄光を気にしながら校門を通過されている、今回のシンポジウムではその栄光に招かれ、喜んで応じたというようなご紹介がまずありました。玉木さんとロシアとの関係は古く、1991年2月に最初の訪露取材をされたと言います。ちょうど昨年11月に、日経新聞「こころの玉手箱」に連載記事を寄稿され、そこに91年のロシア取材の結果を書かれています。モスクワのトレチャコフ美術館で見ることができずに残念だったと玉木さんが書かれているクラムスコイの「忘れ得ぬ女」、これがまさにこの原稿を書いている本日現在、渋谷のBUNKAMURA美術館で展示されているのですから、日露関係も進化したものです。

今回のフォーラムは、今後の日露関係の方向を示す先駆的な役割を担う記念すべきイベントだったと言えるのではないかと考えています。この原稿は、1月22日、安倍首相とプーチン大統領のモスクワで行われた25回目の首脳会談の結果を踏まえた上で書いています。領土問題は、両首脳間で何度話をしても、まったく議論が深化する様子はなく、逆にますます迷宮に迷い込む有様。首脳会談25回という数字はまったくの自己満足としか言えません。日露経済活動といっても、その中にどっぷりつかっている筆者から見ると、スタートしたプロジェクトは多数あっても、うまく動いているものは皆無。唯一、復活ペースにある中古車を含む自動車輸出とロシア産エネルギー資源の輸入により、年間200億ドルという輸出入ベースは確保したものの、経済協力の結果と称されるものは見る影もありません。

そんな中で、今後の日露関係をリードするであろう分野は、スポーツであり、文化であり、芸術の世界です。今年後半の日本スポーツ界の最大イベントは、ワールドカップラグビーだと思われませんが、日本チームの開幕試合は、対露戦の

予定です。1980年代後半、新日鉄釜石のラグビーチームが初めて当時のソ連を訪問し、ソ連チームと親善試合をして以来、日本チームは何度もロシアを訪れて試合を重ねています。このため、日本チームはロシアを、そしてロシアチームは日本のそれぞれの特徴を捕まえており、期待度の高いゲームになりそうです。

芸術でいえば、先述のトレチャコフ美術館展のようなロシア絵画を中心とした展覧会は、日本ではもう珍しくもありません。また、バレエについて言えば、モスクワのポリショイバレエ学校には毎年30名近い留学生が日本から入学し、ペルミのバレエ学校は東京郊外に姉妹校さえ開校しています。なにせ、ロシアを抜いて世界一のバレエ人口を持つ日本のことですから、ロシア人のバレエ教師の日本通いもますます増えることでしょう。

フィギュアスケートの世界、特に女子は日本とロシアが支えているといっても過言ではないでしょう。最近、ザギトワとメドベージェバというスーパースターをスマホゲームのCMに起用したというニュースが流れました。そこには特にロシア人というクレジットもなく、この二人はすでに日本においてロシアという国家を超越した存在として、将来あるべき日露関係を暗示するサンプルのように見えます。

フィギュアの競技会がロシアであるたびに、日本からは大量のファンが現地に向かい、JALのモスクワ線は空席待ちが出る始末です。その結果、この春からJALモスクワ線は年間を通して毎日運行することになりました。まさに、スポーツ、文化芸術が日露関係をリードし、経済はその後を追いかける、という姿です。

そんな意味で、スポーツ文化芸術を縦横に語れる3名のパネリストを得た今回の「栄光OBフォーラム」は、政治に頼らない今後の日露関係を論ずるための第1歩となったのではないかと、企画者として自負しております。



左より、山田会長(30期)、大住氏(18期)、玉木氏、福林氏(13期)、菅原氏(18期)、増木事業部長(30期)

その日は夕刻より大船の駅ビルにある三笠会館にて、18期のミニ同期会が開かれました。サッカー部を中心とする面々の中には、遠く倉敷から参加してくれた伊藤雅さんや沼津の小野さんなど、久々に会う懐かしい顔や、内田さんの

お嬢さんでシンガーのマヤさん、大住さんを慕うフットアーティストのジュンさん、さらにはクロアチアプロリーグで活躍中の甲斐友基選手などがゲストとして参加、まさにサッカーが繋ぐ一晩になりました。こんな素晴らしいリユニオンを可能とし、皆さんにロシアについて少しでも考えていただける機会を作ってくれた「栄光OBフォーラム」と同窓会山田会長、増木副会長はじめ、関係者の皆さんに厚くお礼を申し上げます。

## オール栄光ゴルフコンペ2018報告記

菅野 洋 (22期)

オール栄光ゴルフコンペ2018は、8月26日一昨年、昨年に引き続き東京都稲城市のよみうりゴルフ倶楽部で開催された。今回のコンペは、記録的な猛暑で当日の東京の気温は36℃を超え、まさに倒れそうになる様な中で行われた。

参加者は1期から43期までの計98名で、暑さのため途中棄権1名であった。今回の幹事団は、昨年優勝した22期中心に構成され、代表は筆者が務めたが、実質的な幹事長は20期の高桑毅氏で、高桑氏には、事前の4回の幹事会から賞品の手配、データの集計まで、何から何まで先頭に立って本業もそっちのけでオール栄光ゴルフコンペのために日夜時間を裂いて準備をさせていただいた。また、27期の岩倉氏はよみうりゴルフ倶楽部のメンバーとしてご尽力いただき、27期の渋谷氏も一昨年のコンペの幹事長であった経験を生かし、貴重な助言をいただいた。また、山田宏幸同窓会会長も幹事団に加わっていただいて、栄光学園同窓会会長としての立場からゴルフコンペにご支援をいただいた。参加者は、一部の期には多数の参加者を得たが、7月以来の猛暑が災いしたか、最終的には100名に届かなかった。

参加者は、8:49より、out、inに分かれてスタートした。ちなみに筆者はoutの一番スタートであったが、この時点で気温は32℃を超えていた。Outは名匠井上誠一氏設計の本格的なコースで100ヤードほどinより長く、その分スコアもやや出にくい感じだが、inはやや短い分だけパーが取りやすいコースが多いように思われ、筆者も10打近くinの方がいいスコアであった。極めて暑いので、数ホール毎に氷が置いてあったのは助かったが、暑さでぼーとしながらなんとか18ホールを終えてクラブハウスへ戻ってきて、パーティーに備えた。最初の組が上がってから最後の組まで上がって来るまでは、パーティー会場の隣の控え室で、皆和気あいあいと歓談しながら大いに盛り上がった。

パーティーは、山田同窓会会長の司会で行われ、1期の徳永氏のご挨拶から始まり、成績発表につづいて、優勝者と優勝の期の弁があった。個人のネット優勝は昨年に引き

続き27期の鈴木伸一氏がグロス78、ネット70.8というスコアで獲得した。鈴木氏は横浜市大病院の敏腕心臓外科医だが、ゴルフに懸ける情熱とゴルフの技術も人並み優れており、二年連続での優勝という結果になったものと思われた。個人のベストグロスは23期の崎山氏で77というスコアであったが、崎山氏は熱中症で最後の3ホールはふらふらになりながらやっとホールアウトしたという。今年は、猛烈な暑さのせい、昨年より全体的にスコアは数打悪い傾向にあった。期対抗戦では、ネットの優勝は27期で、グロスの優勝は20期であったが、27期の優勝は昨年からの巻き返しであり、総合力の勝利と思われた。ネット4位は26期となったため、来年は27期と26期で幹事を務めることに決定した。

パーティーの最後に全員での記念撮影があり、また来年に再会を期して、散会となった。来年も8月の最終日曜日に「よみうりゴルフ倶楽部」でお会いしましょう！

期対抗戦(ネット)		ネット合計	ネット平均
1位	27期	293.0	73.25
2位	20期	296.0	74.00
3位	22期	297.8	74.45
4位	26期	299.6	74.90
5位	24期	300.8	75.20

期対抗戦(グロス)		グロス合計	グロス平均
1位	20期	324.0	81.0

個人戦(ネット戦)		ネット
1位	鈴木伸一 (27期)	70.8
2位	大須賀喜彦 (39期)	71.0
3位	尾島 浩 (24期)	72.0
4位	米村俊彦 (43期)	72.2
5位	浅葉 誠 (22期)	72.6

個人戦(グロス戦)		グロス
1位	崎山一茂 (23期)	77
2位	鈴木伸一 (27期)	78
3位	渡辺昭典 (27期)	79
4位	奥田 基 (20期)	80
5位	久保井 実 (20期)	81

2018年度活動報告ならびに2019年度活動計画  
総務部

総務部長 青木嘉光（10期）

2018年度事業報告

(1) 特別委員会”繋がるプラットフォームP/T”の事務局として、議論を推進する。

特別委員会は、予定通り2018年6月にリニューアル作業を完了。その後のホームページの運営を本来の主管である広報部及び“ホームページ運営委員会”に引き継いだ。

(2) 改訂同窓会会則の一部見直し要請への対処

2016年度に改訂施行した新会則について、第5章役員及び委員、第8条(役員)、第2項と第10条(副会長)第1項、並びに第6章会議、第21条(部長会)という2項目の改訂を2018年度総会に発議し、御承認を頂いた。

また、関連諸規程の『栄光学園同窓会「支部」に関する規程』の第5条第1項の1の改訂を12月9日の常任委員会で御承認頂いた。

(3) 事務局との連携の工夫

ホームページリニューアル、新たにスタートした「会員名簿とEACON」、アーカイブ作業準備、総会準備など個別案件で、効率的な会務遂行を目指し、連携を進めた。

(4) イエズス会校同窓会連絡会(JJHAF)

本年度は、イエズス会校姉妹校の各関東支部との意見交換を行い、共同での事業開催に向けて協議を進めた。

2019年度事業計画

(1) 特別委員会「会員名簿とEACON」の取り纏め役として、議論を推進し具体化に結び付ける。

2018年8月に設置した特別委員会「会員名簿とEACON」は、既に9回の議論を積み重ねてきている。EACON上での「会員名簿」配信の具体化とその後の管理運営のために、更に議論を推進し纏めて行く。

(2) 学園アーカイブの整備への協力

2018年秋以降、学園から依頼のある「学園資料室」のアーカイブ整備作業の手伝いを開始するべく、学園と相談しながら協力体制を整えていく。

(3) 事務局との連携の工夫

効率的な会務遂行を目指し、前年度同様、事務局と個別案件での連携をさらに深める努力を続けていく。

(4) イエズス会校同窓会連絡会(JJHAF)

本年度のイエズス会校同窓会連絡会(JJHAF)運営委員会は、六甲伯友会の幹事で開催される予定である。

事業部

事業部長 増木洋介（30期）

2018年度事業報告

A. 同窓会員交流事業

(1) ホームカミング・デイ

例年通り、栄光祭(2018年5月12～13日)においてOBの部屋「アラムナイ」を設置し、飲料や軽食の提供、同窓会事業の紹介等を実施した。今年は65期を幹事期とし当日の運営を任せた。引き続きこの仕組みにより持続的な運営をしていくこととする。

(2) OBフォーラム

第10回(2018年12月15日)「ロシア・ワールドカップは世界を変えるか!」をテーマに、スポーツに知見のあるOBをお迎えし学園小講堂において実施した。菅原氏(18期)、大住氏(18期)、福林氏(13期)に加え、スポーツ文化評論家の玉木氏を特別ゲストにお迎えして充実した講演、パネルディスカッションをおこなった。フォーラム後は、初めての試みとして聖堂ホールにて軽食、ノンアルコールの懇親会を実施し、賑やかな雰囲気でお開きとなった。

(3) 歴史文学散歩

6期三春勝正氏、14期大島弘尚氏を中心に、年4回の歴史・文学散策を実施した。

(4) JJHAF共同イベント

姉妹校3校の関東支部の方々と打ち合わせを重ね、共同イベント開催の意義、重要性の確認を確認し、次年度におけるイベント開催の下地固めをおこなった。

B. 在校生支援事業

(1) OBゼミ講師派遣

例年通り、高1ゼミ及び公開ゼミへのOB講師の派遣を行った。本年度は28期と38期が担当した。

2019年度事業計画

例年実施している事業をしっかりとおこなっていくとともに、姉妹校との交流事業に取り組んでいくこととする。

A. 同窓会員交流事業

(1) ホームカミング・デイ

栄光祭においてOBの部屋「アラムナイ」を設置し、同窓生交流の場を提供する。2019年度の幹事期は66期とする。

(2) OBフォーラム

第11回の開催を予定する。

(3) 歴史文学散歩

6期三春勝正氏、14期大島弘尚氏を中心に、年4回の歴史・文学散策を行う。

- (4) JJHAF共同イベント  
実施を具体化していく。

## B. 在校生支援事業

### (1) OBゼミ講師派遣

高1ゼミ及び公開ゼミへのOB講師の派遣を行う。本年度は29期と39期が担当する。

## 活動サポート部

活動サポート部長 島崎裕之 (26期)

### 2018年度事業報告

#### (1) 各期活動支援

今年度も同窓会が把握した情報によると、延べ20回ほど同期会やゴルフコンペ等の活動が開催され、情報が入らない活動も相当数あると思われる。30～40歳代の活動が低調である傾向は変わらないが、30代の50期代の活動も報告があった。

#### (2) 支部活動支援

今年度も同窓会の把握では、17回の活動が行われた。

地域の活動を活性化すべく、同窓生の地域分布表を作成し、アラムナイにて開示した。横須賀～茅ヶ崎にかけての母校地元支部は継続的に活動を行っているが、地方では北海道・静岡でも活動が行われた。部活動や職域業界でも継続的に活動が行われている支部がいくつか見られる。

ただし支部の新規設立はなかった。

#### (3) その他活動グループ支援

8月26日(日)によるみうりゴルフ倶楽部で開催されたオール栄光ゴルフコンペは、97名の参加があり、盛況であった。

#### (4) 社会貢献活動支援

今年度も東ティモールイエズス会校への支援を行った。

### 2019年度事業計画

同窓生の縦横の繋がりを活性化すべく支援を行っていく。

#### (1) 各期活動支援

各期幹事とのコミュニケーションを強化し、情報を収集・共有を図り、活動の活性化に努める。

#### (2) 支部活動支援

先期に作成した地域分布を生かすとともにEACONを活用し、地域支部の新設を目指す。また活動の停滞している支部の再活性化を図る。

#### (3) その他活動グループ支援

本年夏に開催されるオール栄光ゴルフコンペを後援する。各ネットワークを活用し、動員を支援する。

#### (4) 社会貢献活動

引き続き、東ティモールイエズス会校への支援等の社会

貢献活動を行っていく。

## 広報部

広報部長 高橋英治 (28期)

### 2018年度事業報告

#### (1) 会報アラムナイ

同窓会報The Eiko Alumniは第90号を10月上旬に、第91号を2019年4月上旬に発行した。

#### (2) 同窓会ホームページ

ホームページは2018年度総会にてご案内の通り6月よりリニューアル公開を開始し、月に2回の頻度で記事の更新を行っている。また、ホームページ委員会メンバーによる活動がOBインタビュー記事の編集等で開始されている。

#### (3) EACON

EACONへのアクセス数は年間で2900件ほどとなっている。

### 2019年度事業計画

#### (1) 会報アラムナイ

The Eiko Alumniは10月上旬に92号、2020年4月上旬に93号を発行予定である。

#### (2) 同窓会ホームページ

ホームページについては現在の記事更新頻度を維持しつつ、ホームページ運営委員会の活動を活性化させ、新たな記事の掲載に努める。同窓会のFacebookページの転載、訃報記事の早期掲載について解決を図る。

#### (3) EACON

EACONの運用については名簿機能を中心に継続して運用を推進するため、ホームページならびにThe Eiko Alumni誌面に入力の呼びかけとその手順の紹介を掲載する。

## 財務部

財務部長 近藤亮介 (45期)

### 2018年度事業報告

会費請求については、口座振替に移行済みの会員に対して当年度分2,500円の引き落としを実施した。また、振り込みで納入している会員については、第1グループ2,479名を対象に、4年分(未納がある場合には8年分)一括振り込みの郵便振替の案内を送付した。さらに、前年度までに請求した第2、第3及び第4グループのうち未納の会員1,700名にも再度納入を依頼した。

当年度も前年度から引き続き、各種イベントの参加者で会費が未納である会員について積極的に納付をお願いする等、地道な会費納入依頼活動を実施した。しかし、人数の多い第1グループの振り込み納入者が減少してしまい、会費納入率は前年(47.0%)を大きく下回り、44%程度となる見込みである。

一方で、人数の多い第1グループの振り込み年度であるため収入自体は前年度よりも増加し、加えて経費の節減と予実管理に努めた結果、年度の収支については2百万円程度の黒字となる見込みである(前年は2百万円の赤字)。

## 2019年度事業計画

会費納入については、前年度から引き続き会費情報のデータベースを利用して、同期会、支部及びOBフォーラム等各種イベントの参加者で会費が未納である会員について積極的に納付をお願いし、納入率50%超を目指していく。また、より簡単に会費が納入できるようにするため、会費のクレジットカード払いについても検討を行っていく。

また、引き続き予算策定の精緻化を進め、ホームページのリニューアルや会員名簿のあり方の検討等、大きく変化している同窓会を取り巻く環境に対応できるよう、より健全な収支モデルを構築していく。

## 2018年度JJHAF(イエズス会校同窓会連絡会)について

栄光学園同窓会会長 山田宏幸 (30期)

1年に1度、姉妹校の六甲学院、広島学院、上智福岡中学高等学校との4校で開催している「イエズス会校同窓会連絡会」(JJHAF:The Japan Jesuit Highschool Alumni Federation)平成30年度は六甲学院が幹事校の順番でしたが、各校諸般の事情で日程の調整が叶わず、残念ながら平成31年度に持ち越しとなりました。

そのかわりという訳ではありませんが、平成30年度は、3校の関東支部と栄光が“JJHAF関東”会合を開催しました。各校関東支部長と関東支部役員の皆さん、栄光からは増木副会長、大須賀幹事、そして山田が参加。2か月に1回程度の頻度で、今年の1月15日までに4回打合せを行いました。幹事は概ね持ち回りで、次回第5回打合せ(3月25日予定)は栄光が幹事です。平成31年度(2019年度)には、東京でコラボレーション企画の開催を目指しています。あまり気張らずに、比較的手軽な企画からスタートしようという共通認識で調整を進めています。現時点ではまだどのよう

な形になるか見えていません。今後の展開や決定事項等は、ホームページや会報ALUMNIなどでお知らせしていきますので、あまりハードルを上げずにご期待ください。

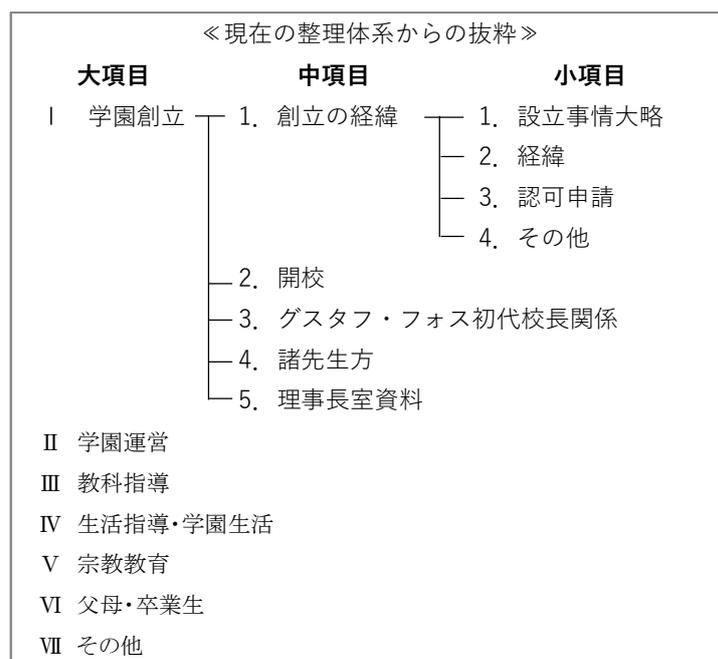
## 栄光学園資料室・整理作業手伝いのご報告

総務部長 青木嘉光 (10期)

栄光学園の保存記録について、その整理作業の手伝いを学園から依頼を受けたことは、前号のアラムナイで皆様にお知らせした。資料室は本年2月にエアコンの新規設置が完了し、貴重な資料保存の最低限の環境は整ったとのことである。

この整理作業のお手伝いを3月9日、15:00から2時間ほど実施した。当日は、資料室に積んである、未整理の段ボール4箱の中身を見て、資料として残すべきものと捨てても良いものとに仕分けをする作業。前号のアラムナイ記事を読んで、協力を申し出てくれた3名の会員(4期、12期、22期)のほか、同日11時30分からあった同窓会執行役員会、特別委員会の中から引き続いての参加者もあり、15名の集まりとなった。

今後、今回残すべきものとされた資料はコンピューターにデータとしてインプットされる。仕訳の体系は、過去に資料室をご担当された先輩方のご努力で下の例(一部抜粋)に示す通り出来上がっているのにそれに加えて行くことになる。



現在までに、この体系に沿って整理済みの資料のデータがインプットされている。

そして、資料の現物は、関連番号を付けた段ボール箱に格納、資料室の棚に置かれている。この未整理箱からデータのインプットが済んだら、これらのデータと整合性を取り、利・活用のしやすいよう、現物の入った段ボール箱、更には段ボール箱内の封筒の整理整頓へと進むことになる。ただ、これら作業は基本的には学園資料室が行うことになる。

こうして保存記録の整理が終わったら、次は、何と云っても皆様への「公開」と言う段階になる。学園資料室に協力して考えて行くことであるが、学園の話では、常設の展示場はしばらく望めないということであるので、5月の栄光祭のOBの部屋など、毎年どこかの日に、懐かしい保存記録の一部を公開する機会を設けることなどを考えていくことになる。また、リニューアルされた同窓会ホームページにも随時、懐かしい写真の掲載などの企画をし、皆様に「公開」して行くことも考えられそうである。



執行部メンバーに加え、複数の会員の応援も得て実施

栄光学園の保存記録ではあるが、同窓生にとっても懐かしい思い出の数々が集まっている。貴重な保存記録であるが膨大な量でもあり、学園の取組方針が明確になれば、学園資料室の意向を尊重しながらこれからも協力を続けていく必要があるかもしれない。

## 特別委員会：「会員名簿とEACON」からのご報告

総務部長 青木嘉光（10期）

特別委員会「会員名簿とEACON」は昨年8月の常任委員会で設置を御承認頂いて以来8回開催。現在「非公開」ばかりが目立つ「EACONの会員名簿」の情報を、従来の「紙の名簿」と同じ「公開」レベルに変えることで、「役に立つ名簿」に出来ないか法律面、システム面、両方から議論を重ねてきた。これまでの検討の経緯を以下にご報告申し上げます。

### 【1】法律面からの検討（個人情報保護法の遵守について）

個人情報保護委員会に個人情報保護法への対応について照会、また「栄光学園同窓会個人情報保護ポリシー」を見直し、2014年版会員名簿と同レベルの個人情報をWEB上に提供することは問題のないことを次の通り確認した。

#### ● EACON「会員名簿」に、「紙の名簿」に公表されている同じ個人情報を掲載することに問題はない。

(1)「紙」から「WEB」に媒体をかえても、記載項目を変える必要はない。

「一般論として、個人情報保護法では、会員名簿について印刷名簿とWEBによる名簿とで、その記載項目に関して何の違いも定めていない。また、個人情報保護法にはどの項目とも書かれていない。従って、印刷からWEBに変えても公表する記載項目を変えなくても構わない。」（個人情報保護委員会相談ダイアル 2018.11.5.）

(2) 当同窓会は以前から「紙」の名簿を作成しており、その際、「第三者提供」について、同意を得ていると考えてよい。⇒ WEB画面での公開は問題ない。

Q: 新たに会員名簿を作成・配布する場合、変更点の無い会員は、以前取得した情報をそのまま利用することになるが、その場合はどのように取り扱えばよいのか？」

A: 「以前に会員名簿を作成する際、その会員に対して、「利用目的」を伝え、「第三者提供」について同意を得ていると思われるので、その場合は改めて何か行う必要はない。」（個人情報保護委員会の注意事項、平成29年5月）

さらに実態面の確認のため、EACONのプロバイダーである(株)イーストゲートに、同社の他のユーザーの運用状況を聞いてみた。「他の同窓会のお客様の場合、システム導入前に会員の住所や電話番号が記載された名簿を冊子でご郵送されていた団体は、システム移行後も住所や電話番号を最初から公開していることがあります。(イーストゲート・伊藤2018.12.3.)」このように、システムへ移行後も「紙の名簿」と同様に公開しているところもあるとの回答であった。

(註)個人情報保護委員会について

個人情報保護委員会は、日本の行政機関の一つ。内閣府の外局として、内閣総理大臣の所轄に属する行政委員会。個人情報の保護に関する法律に基づき、2016年(平成28年)1月1日に設置され、具体的には、次のような業務を行っている。○特定個人情報の監視・監督に関すること ○苦情あつせん等に関すること ○特定個人情報保護評価に関すること ○国際協力 ○個人情報の保護に関する基本方針の策定・推進:個人情報保護法に基づく「個人情報の保護に関する基本方針」の策定等を行い、官民の個人情報の保護に関する取組を推進 ○広報・啓

発: 個人情報の保護及び適正かつ効果的な活用について、パンフレット、ウェブサイト、説明会等を活用した広報・啓発活動 ○その他。

年)5月30日から全面施行された。

当同窓会の現状は、個人情報を集める時、①「利用目的を特定(第15条)」しており、②「取得に際し、その利用目的

を公表(第18条)」しており、③第三者に提供の制限(第23条)も「名簿に掲載される会員に対して配布するためと伝えらうえて任意で個人情報を提供してもらえば、同意を得たこととなります。」と言う個人情報保護委員会の説明通りに対応している。

これらはずべて、ホームページ右下「ご利用にあたって」をクリックし「栄光学園同窓会個人情報保護ポリシー」で、誰でも閲覧可能なように、公表してある。また、特に新卒生には卒業式当日配布

(ご参考:比較詳細)

① 個人情報を集める時のルール

ステップ① 個人情報を集める前、個人情報取扱事業者の義務等に関する規定

個人情報保護法	当同窓会の対応実態	確認事項
(利用目的の特定)第15条 個人情報取扱事業者は、個人情報を取扱うに当たっては、個人情報の利用目的を予め特定する。	栄光学園同窓会個人情報保護基本規程: 第5条: 当会は、個人情報を取扱うに当たっては、利用目的は、下記の目的並びに常任委員会・総会の決定に基づくものとし、できる限り特定する。	(1) 当会はこのように「利用目的」を特定し、予め公表しているため、問題はない。
*「会員名簿を作成し、名簿に掲載される会員に対して配布する為」と利用目的を特定する必要がある。(個人情報保護委員会、平成29年5月)	記 会員名簿作成 会員への同窓会活動の案内及び報告 会員に対する年会費の請求 母校への支援活動の呼び掛け	(2) 当会の規程には、「名簿に掲載される会員に対して配布する為」とは書いてない。これを「会員名簿を作成し、名簿に掲載される会員に対して配布」と改訂する

ステップ② 個人情報を集める時、個人情報取扱事業者の義務等に関する規定

個人情報保護法	当同窓会の対応実態	確認事項
(取得に際しての利用目的の通知等)第18条 個人情報取扱事業者は、個人情報を取得した場合は、予めその利用目的を公表している場合を除き、速やかに、その利用目的を、本人に通知し、又は公表しなければならない。	栄光学園同窓会個人情報保護基本規程 (取得に際しての利用目的の通知等) 第8条 当会は、個人情報を取得した場合は、予めその利用目的を公表している場合及び取得の状況から見て利用目的が明らかであると認められる場合を除き、速やかに、その利用目的を本人に通知し、又は公表する。	(1) 当会はこのように「利用目的」を特定し、予め公表している。この「公表」により、本人への明示はなされている。
*「本人から書面で個人情報を取得する場合には本人に対して利用目的を明示する」(個人情報保護委員会、平成29年5月)		

② 個人情報を第三者に提供する時のルール

ステップ③ 個人情報を第三者に提供する時、個人情報取扱事業者の義務等に関する規定

個人情報保護法	当同窓会の対応実態	確認事項
(第三者提供の制限)第23条 個人情報取扱事業者は、次に掲げる場合を除くほか、あらかじめ本人の同意を得ないで、個人データを第三者に提供してはならない。 一 法令の基づく場合 二 人の生命、財産を守る場合 三 委託先に提供する場合 他	栄光学園同窓会個人情報保護基本規程 第9条 当会は、次に掲げる場合を除くほか、予め本人の同意を得ないで、個人情報を第三者に提供しない。 (1) 個人情報保護法第23条第2項(オプトアウト)ないし第3項(共同利用)の方法による場合 (2) 法令等の規定に従い、提供又は開示する場合 2. 当会の第三者への提供は以下の宛先とする (1) 会員名簿作成のために出版社等への呈示 (2) 会員や学園関係者からの正当な問い合わせへの返答 (3) その他常任委員会・総会での決定に基づく提供 (4) 正副会長が協議して決定した宛先	「名簿に掲載される会員に対して配布するためと伝えらうえて任意で個人情報を提供してもらえば、同意を得たこととなります。」と言う個人情報保護委員会の説明通りに対応。本人の同意を得たことになっており、会員への提供は問題ない。
*「名簿に掲載される会員に対して配布するため」と伝えらうえて任意で個人情報を提供してもらえば、同意を得たこととなります。(個人情報保護委員会、平成29年5月)		

● 個人情報保護法と栄光学園同窓会個人情報ポリシーとを比較、個人情報取扱事業者に求められる義務にも対応できていることを確認。

平成15年(2003年)5月30日「個人情報の保護に関する法律」が成立、平成17年(2005年)4月30日に全面施行された。その後、社会環境の変化を踏まえ、平成27年(2015年)9月に改正個人情報保護法が成立し、平成29年(2017

年)5月30日から全面施行された。このように、個人情報保護法の遵守については、遺漏のない運用体制になっていることを重ねて確認した。

【2】システム面からの検討(EACONの設定条件の変更について)

個人情報保護法への対応は出来ていることが確認できた

③その他のルール

ステップ④ 個人情報を保管している時、個人情報取扱事業者の義務等に関する規定

＜個人情報保護法＞	＜当同窓会の対応実態＞	＜確認事項＞
(データ内容の正確性の確保等)第19条 個人情報取扱事業者は、利用目的の達成に必要な範囲内において、個人データを正確かつ最新の内容に保つとともに、利用する必要がなくなった時は、当該個人データを遅滞なく消去するよう努めなければならない。	栄光学園同窓会個人情報保護基本規程(データ内容の正確性の確保)第10条、当会は、利用目的の達成に必要な範囲内において、個人情報を正確かつ最新の内容に保つよう努める。	遵守できている

＜個人情報保護法＞	＜当同窓会の対応実態＞	＜確認事項＞
(安全管理措置)第20条 個人情報取扱事業者は、その取扱う個人情報の漏えい、滅失またはき損の防止その他の個人情報の安全管理のために必要かつ適切な措置を講じなければならない。	栄光学園同窓会個人情報保護基本規程(安全管理措置)第11条当会は、取扱う個人情報の漏えい、滅失又は毀損の防止その他の個人情報の安全管理のために必要かつ適切な措置を講じる。	遵守できている
* 同窓会の事務局において盗難・紛失等のないよう適切に管理する必要がある。名簿配布先の会員に対して、盗難や紛失、転売したりしないよう注意を呼びかけることも重要。		

＜個人情報保護法＞	＜当同窓会の対応実態＞	＜確認事項＞
(委託先の監督)第22条 個人情報取扱事業者は、個人情報の取扱いの全部又は一部を委託する場合、その取扱いを委託された個人情報の安全管理が図られるよう、委託を受けたものに対する必要かつ適切な監督を行わなければならない。	栄光学園同窓会個人情報保護基本規程(委託先の監督)第14条当会は、個人情報の取扱いの全部または一部を委託する場合は、当該第三者における個人情報保護へ向けた対応の状況等に照らし、委託を行うことの適切性を検討するとともに、当該第三者との間で秘密保持契約を締結したうえで提供を行うものとし、且つ、委託先に対しては適切に監督を行うものとする。 ②前項の適切性の判断にあたっては、当会の従業員規程の水準を基にこれを行うものとする。	印刷業者にはきちんと申し入れをしていた。また(株)イーストゲートとは秘密保持契約を締結している。
* 情報の持ち出し禁止、委託された業務以外の利用禁止、返却・廃棄等を記載した書面を渡す等		

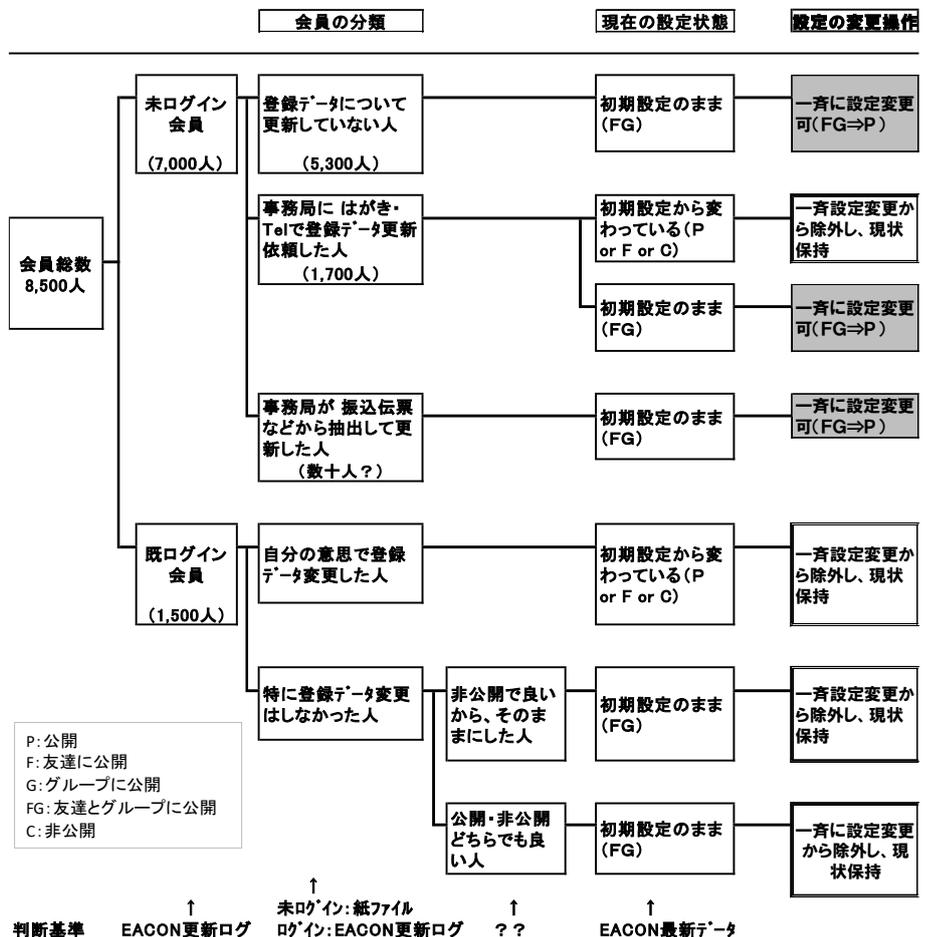
「通知状(お知らせ)」に会員の理解と協力をお願いする文言を入れておくことで対処することを基本方針とする

《 初期設定の変更(FG⇒P)の一斉操作と操作除外者の詳細》

EACONのアクセスログを基に、約8,500人の対象有効会員を分けると、未ログイン会員が約7,000人、既ログイン

ので、つぎに実際にEACONの「公開」レベルの設定変更をどのように進めるかを議論した。

初期設定の変更(FG⇒P)の一斉操作と操作除外者



● EACONの初期設定変更(紙の名簿と同じ公開レベルの情報提供)のための手順

「EACONの画面」を、「紙の名簿」と同じレベルに戻して公開するに当たっては、どのような手順で行うか、そして「紙」から「WEB」に会員名簿の媒体を変えることを会員に正式に周知する際の注意事項について検討した。

(1)画面の初期設定変更前の準備

初期設定の変更(「友達とグループに公開=FG」を「公開=P」に)の実施前に、①アクセスログ及び②事務局への葉書や電話記録などを見て、既に自分の意思で「非公開」などに設定変更をした会員をよく捕捉し、これら会員の「非公開」などの意思は変更せず維持するよう、細心の努力を払う。そのうえで、万が一の漏れが発生する場合に備え、予め

ン会員が約1,500人となる。このうち、既ログイン会員1,500人は、① 自分の意思で登録データを更新した人と、② 特に更新はしなかった人とに

(ご参考)「EACON会員名簿画面」の掲載情報の公開・非公開の設定

	表示項目(10)	姓	名	期別	部活動	大学名	住所1(県、市町村)	住所2(丁目、番地)	電話番号	物故者
現在の公開・非公開	プロフィールの初期設定	公開	公開	公開	公開	公開	お友達とグループに公開	非公開	非公開	公開
	一覧表表示(全体からの見え方)	公開	公開	公開	公開	公開	非公開	非公開	非公開	公開
変更後の公開・非公開	プロフィールの変更後の設定	公開	公開	公開	公開	公開	公開	公開	公開	公開
	一覧表表示(全体からの見え方)	公開	公開	公開	公開	公開	公開	公開	公開	公開

分けられるが、いずれも設定の一斉変更(FG⇒P)の対象からは除外する。

未ログイン会員7,000人は、このうちの5,300人が登録データについて更新をしていない。これらは設定の一斉変更(FG⇒P)の対象としても問題はない。残りの1,700人は事務局に葉書や電話で登録データ更新を依頼している。但し、この中には、「公開」「非公開」を伴う更新依頼とは限らず、単に住所等の異動の更新依頼もある。従って、未ログイン会員については、大半が設定の一斉変更(FG⇒P)の対象となるが、事務局に「公開」「非公開」の設定変更の依頼があった人については全員除外する。(図表「初期設定の変更(FG⇒P)の一斉操作と操作除外者」参照)

この様に、「役に立つ名簿をEACONで提供」するべく議論を進めて来ているので、会員の皆さまには、次の点につき、是非ご理解とご協力をお願い致します。

(1) 2014年のEACON開始以来、未だログインが済んでいない会員の皆様は、今回再度お配りするIDと仮パスワードで、必ずEACONへのログインをお願い致します。

(2) 5月11日の総会后、7月1日を目標に「公開」「非公開」の設定変更を予定しています。変更後の画面を必ずご覧いただき、ご自分の情報をご確認頂くことをお願い致します。

(3) EACON上では、ご自分の個人情報をご自分で管理することが出来るようになりますので、今後のご協力をお願い致します。

### 【3】 今後の予定について

「会員名簿」は同窓会活動の根幹をなすものであり、また会員全員の重要な個人情報に係る問題でもあるので、当然「総会」にお諮りする必要がある。その為、今後の行程管理でも5月11日の「総会」を念頭に予定を立てている。

#### ● 「EACON会員名簿」について、説明用の印刷物を作成し会員一人一人に郵送する

会員名簿の印刷をやめ、「EACON」での管理の開始にあたり、変更の趣旨をよく理解してもらうため、「会員リスト」「EACONの使い方」それに、「通知状(お知らせ)」を準備し会員一人一人に郵送する。

#### ● EACON未ログインの会員全員へIDと仮パスワードを個別に郵送する

また、2014年以来まだ、EACON未ログインの会員に対しては、再度IDと仮パスワードを同封する。これを使って、今回は必ず、EACONにログインするよう注意を喚起する。

(これら議論に参加してくれている特別委員会メンバーは次の通りです)

会長、副会長、事務局長、及び本部5部の部長、大須賀喜彦幹事(39期)、中路喜之(29期常任委員)、森厚(31期委員)、内藤文樹(32期常任委員)、河原光博(37期常任委員)、村井元彦(37期委員)、米村俊彦(43期常任委員)、石田明久(51期常任委員) \*敬称略(取り纏めは総務部長)

日程・会議予定	印刷物(郵送するもの)				EACON画面の設定変更(FG⇒P)		
	「会員リスト」		「EACONの使い方」		「通知状(お知らせ)」		
準備事項	内容	担当	内容	担当	内容	担当	
4月20日 「常任委員会」 「執行委員会」 「特別委員会」	「会員リスト」内容詳細の確定 表紙、凡例、目次、逝去者一覧 旧姓は( )で付記 記載内容等検討	特別委員会 事務局	ホームページ掲載「EACON操作手順」に多少の修正を加えて完成	広報部長	原案提示(前半の「お知らせ」部分は共通、後半はログイン状況に応じて文章を用意)	特別委員会 事務局	データベースの整備 データベースから抽出作業 ・未ログイン会員 設定変更無⇒一斉変更可 設定変更有⇒一斉変更除外 ・既ログイン会員 設定変更済⇒一斉変更除外 設定変更無⇒一斉変更除外
5月11日 「総会」	「総会」での名簿に関する決議をホームページに掲載、周知を図る	特別委員会 広報部	印刷名簿廃止、WEB版名簿開始の承認を得る。 EACON画面の設定変更について説明 「通知状(お知らせ)」、「EACONの使い方」、「会員リスト」 原案を常任委員会で説明し、総会上程の承認を得ておく	会長文言修正後 原稿完成	宛名の分類作業 ・ID、パスワードの付与 有・無	特別委員会	
6月XX日 「執行委員会」	「通知状(お知らせ)」、「EACONの使い方」、「会員リスト」の封筒詰め	事務局		総会后印刷屋へ発注 「通知状(お知らせ)」、「EACONの使い方」、「会員リスト」	事務局		
7月1日	「通知状(お知らせ)」、「EACONの使い方」、「会員リスト」の発送	事務局				事務局	画面変更の実施

## 2018年度OBゼミ

### 事業部

2018年度OBゼミは28期と38期が担当し、全24回が行われた。開催に当たっては2018年2月に前年度担当の27期、37期の担当者から注意点などを直接うかがうキックオフミーティングが開催された。同ミーティングはまる1年を経て今度は2019年度担当との間でも実施されている。

以下に実施日、OBゼミタイトル、担当者の一覧を示します。

- ① 5月2日 公務員と民間企業を経験して思うこと  
岩野 宏(28期) 一般財団法人 アジア太平洋研究所 代表理事 (住友電気工業(株)出身)
- ② 5月9日 X線回析  
井田 隆(28期) 名古屋工業大学先進セラミックス研究センター教授
- ③ 5月16日 政治史とは何か(文系の研究者を目指す君に)  
松浦正孝(28期) 立教大学法学部教授(日本政治史)
- ④ 5月23日 激甚災害 その時、行政、法曹、医療が果たした役割-東日本大震災(2011)-で見た、聞いた、した事-  
中原新太郎(28期) (株)地域・技術経営総合研究所 代表社員 兼 所長/(株)多夢 代表取締役社長/研究・イノベーション学会 評議員/同 既存知識の新結合によるイノベーションでの地域活性化サブ研究会 主査
- ⑤ 6月6日 救急医療から災害医療へ  
橘田要一(28期) 東京大学医学部附属病院救急科、東京大学大学院医学系研究科救急科学 准教授
- ⑥ 6月13日 量子コンピューターをつくる  
小池汎平(28期) 産業技術総合研究所ナノエレクトロニクス研究部門 上級主任研究員
- ⑦ 6月20日 映像プロデューサー という仕事 -やりたい仕事、やれる仕事、やる仕事-  
奥田英二(28期) 有限会社奥光(実家の繊維卸業者)勤務
- ⑧ 6月27日 公認会計士という仕事 ~その実態と将来性  
手塚正彦(28期) 公認会計士 有限責任監査法人トーマツパートナー、日本公認会計士協会常務理事
- ⑨ 9月19日 最新のメンタルトレーニング ~企業やスポーツ界の現状~  
辻 秀一(28期) (株)エミネクロス代表、スポーツドクター
- ⑩ 10月10日 ~自国主義が叫ばれ、AIが跋扈(ばっこ)する時代に~アナタは、どう生き抜くべきか、ハタラクべきか  
小林 淳(28期) 元株式会社電通 情報システム局長
- ⑪ 10月24日 インターネットという隕石 -フェイクニュースも化する時代マスメディアは生き残れるか-  
藤野啓介(28期) 日経CNBC取締役 編成担当
- ⑫ 11月7日 患者サポートセンターから始まる未来の医療~地域包括ケアシステムの構築とチーム医療の推進~  
出江洋介(28期) 東京都立駒込病院 患者サポートセンター長・臨床検査科部長
- ⑬ 11月14日 プラント建設 -海外のプロジェクトにたずさわるとのこと-  
高橋英治(28期) 千代田化工建設(株)建設部工事計画管理セクション、一級建築士、労働安全コンサルタント
- ⑭ 11月21日 記者の仕事~しらべる、かく、つたえる~  
谷津憲郎(38期) 朝日新聞社会部デスク
- ⑮ 11月28日 デジタルトランスフォーメーション戦略  
高橋 秀(38期) 三菱UFJ銀行 デジタル企画部
- ⑯ 12月5日 「ライフサイクルゲームII」を使って生涯設計を考えよう  
熊野一穂(38期) 第一生命ホールディングス株式会社 監査等委員会室 部長
- ⑰ 1月9日 気候変動・北極の温暖化の研究/地球科学・気候科学の研究に関わる仕事とは  
末吉哲雄(38期) 国立極地研究所 国際北極環境研究センター 特任准教授
- ⑱ 1月16日 38期の外科医から見た、医療(特に外科)の現実  
小野秀高(38期) 横浜市立みなと赤十字病院 食道・胃外科 副部長
- ⑲ 1月23日 建築とは何か? ~考えながら生きる、生きながら考える~  
長崎辰哉(38期) 株式会社アトリエハレトケ 一級建築士事務所
- ⑳ 1月30日 JR東日本の仕事  
藤井 玄(38期) 東日本旅客鉄道株式会社 仙台支社総務部安全企画室
- ㉑ 2月6日 これまでのキャリアを振り返って  
渡邊耕太郎(38期) デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー合同会社 (Deloitte Tohmatsu Financial Advisory LLC, "DTFA") 執行役員パ

ートナー・アジアパシフィック自動車セクター・産業機械セクター・リーダー

- ② 2月13日 システムエンジニアという立場を通じた社会貢献について  
長嶺七海(38期) 日本電気株式会社 第二官公ソリューション事業部
- ③ 2月20日 思い通りにいかないことを柔軟に受け入れて自分を創っていく  
小林圭介(38期) 株式会社ディー・エヌ・エー ヘルスケア事業本部 ライフサイエンス事業部 AI創薬グループマネジャー 株式会社DeNA ライフサイエンス R&Dグループ
- ④ 2月27日 今までの価値観にとらわれるな  
桜田賢介(38期) 株式会社ワーキング・ヘッズ・アドバンス 代表取締役

## 母校の様子・恩師について

### 「学園通信」より

内山正樹 (9期)

#### 1. 創立記念式典 学校長のことば

第71回の創立記念式典での望月伸一郎校長の挨拶を抜粋して紹介します。

\*\*\*\*\*

今日6月21日は、栄光学園の保護の聖人である、アロイジオ・ゴンザガの記念日で、学園の第71回目の創立記念日です。

創立記念日とは、いわば学校の誕生日です。これまでの歴史をふり返りつつ、自分たちの学校はどんな学校であるのかという、いわば原点を再確認する機会となる日です。

先週のことでしたが、学校の保健室に用事があってちょっと立ち寄って見たら、入ったところにある大きな丸テーブルの上に一冊の本というか、マンガが置いてありました。それは、吉野源三郎原作の『君たちはどう生きるか』というマンガ本です。この本は去年出版されたにもかかわらず、もうすでに200万部以上の売り上げを記録しているベストセラーです。みなさんの中にも読んだことのある人はたくさんいるだろうと思います。

コペル君というあだ名のついた15歳の主人公が、学校で体験した様々なできごとを、父親代わりのようになっているおじさんに話します。そして、そのやりとりを通じて、コペル君自身が、自分の中に広がる新しい世界や可能性に気づ

いていくという物語です。

このマンガの原作となっている吉野源三郎の小説は、いまからもう80年以上も前の1937年に出版されたものです。タイトルとなっている「君たちはどう生きるか」という言葉は、実は、小説の最後の言葉であり、著者から読者への問いかけの言葉なのです。

「君たちはどう生きるか」

私たちは自分の将来を考えると、どんな仕事につこうか、どんな大学に進学しようかを考えます。確かにそれはとても大切ですし、納得のできる選択をするためには、正確なたくさんさんの情報が必要でしょう。自分の希望する大学にいき、職業につくには、情報だけでなく努力も必要です。

ですが、たとえどんな進路を選択し、どんな仕事や地位についたとしても、大切なことは「君たちが何になるか・何になりたいか」ということと同時に、この小説のタイトルのように、「君たちはどう生きるか・どう生きたいか」ということではないでしょうか。

冒頭にもお話ししたように、今日は、カトリック教会の中で、アロイジオ・ゴンザガという人の記念日です。栄光学園は、アロイジオ・ゴンザガを保護の聖人とする学校、別の表現をするなら、アロイジオ・ゴンザガにならい、その心、その生き方を模範とするような学校である、ということです。

アロイジオの生涯をたどるとき、私たちがそこから学ぶこと、私たちににとって大切なことは、何になりたいのか、どんな業績をあげたいのか、ということではなく、どう生きたいのか、ということです。

アロイジオが示してくれているのは、まさに **men for others, with others** という生き方そのものです。そして、どのように生きていくのか、ということは、君たち自身、一人一人が考えなければなりません。ひとつひとつの判断や行動に、すでに用意されている答えがある わけではありません。それぞれの時、それぞれの場で、君たち自身が答えを出す、ということが大切です。

アロイジオのような生き方は、アロイジオにしかできないわけではありません。栄光学園で学んで卒業して行った、君たちの先輩たちの何人もが、そのような生き方をしたということ、しているということを、今も私たちに示してくれていると思います。

今日の創立記念日にあたっての、私からのメッセージは以上です。

#### 2. 長崎巡礼

夏休みに中3(70期)の希望者18名が世界遺産入りが決定した長崎への巡礼を行いました。参加者のY.N.君の感想

を紹介します。

応援下さった皆さまへ

67期キャプテン M.F.

\*\*\*\*\*

僕はこの4日間の長崎巡礼を通して、普段の日常生活では味わえない貴重な体験をした。その貴重な体験とは、キリスト教の歴史を知るために多くの教会や記念館、資料館などに実際に足を運び、当時キリスト教を信仰していた人たちの生き方や考え方について深く時間をかけて考えることができた、というようなものだ。このような体験の中では二つの発見があった。まず一つ目の発見として、当時キリスト教を信仰していた人たちは皆、「ある一つの目標」のためには、自分の命を惜しまなかった、ということが挙げられる。さらにこのような行動を僕と同じくらいの年の子や、僕よりも幼い子がしていたことには驚いた。そして、その「ある一つの目標」とは、「自分以外の全ての人(自分を殺す人も含む)が、悪から救われ、世の中が平和になるように」ということであった。二つ目の発見は、キリスト教に関することではないが、平和記念公園や原爆資料館を見学した時に、戦争や原爆の悲惨さや残酷さ、何の罪もない人たちが亡くなる無意味さを改めて実感し、もう二度と同じ過ちを繰り返さないようにしてはならないと強く思ったことだ。僕はこのような二つの発見を通して、今の自分の目標は何か、と考えさせられ、またそのような目標を達成するまでの間では自分以外の人と、どのように接すればよいかを学んだ。

### 3. 野球部県大会ブロック優勝、南関東大会準優勝

野球部が春季大会での県大会優勝、関東大会優勝の快挙に引き続き、夏季大会でも大活躍しました。県大会ではBブロックで優勝し、全国大会出場を懸けた南関東大会(神奈川・埼玉・千葉)で決勝に勝ち上がりました。決勝は慶應義塾高校との神奈川対決となり、先制、逆転、再逆転と大接戦になりましたが、8回裏に追いつかれ、残念ながら9回サヨナラ負けで全国大会出場を逃しました。

試合結果と67期キャプテンM.F君の挨拶を紹介します。

\*\*\*\*\*

夏季県大会Bブロック

2回戦	対藤嶺藤沢	10x	—	3
準決勝	対聖光学院	4	—	2
決勝	対桐蔭学園	7	—	4

南関東大会

準決勝	対花咲徳栄	7x	—	0
決勝	対慶應義塾	4	—	5x

\*\*\*\*\*

先日の夏大会に応援に来て下さった、たくさんの生徒、保護者、先生方、本当にありがとうございました。一年間目指してきた全国大会まであと一つのところで負けてしまい、とても悔しい思いもしましたが、スタンドを埋めて下さった皆様のご声援の中、最後までプレー出来たことに感謝しています。グラウンドから目を向ける度に目に入ってきた大応援団、一球毎に頂いた大きな歓声は、今後も印象強く残っていくことと思います。

僕の親含め野球部の父母たちからも、皆様のご声援に感謝している旨を聞いており、親子共々感謝しています。

67期は引退となりましたが、新チームがまた新たな目標に向け頑張っておりますので、今後とも野球部への応援をよろしくお願いいたします。

本当にありがとうございました。

### 4. 数学甲子園・英語弁論大会 全国優勝

第11回全国数学選手権大会(数学甲子園2018)で68期の5名のチームが全国610チームが参加する中、8月に行われた予選会でチームの平均点上位36チームに入り、9月に行われた本戦で灘高等の強豪を押さえ初の全国大会優勝を達成しました。

11月には第67回チャーチル杯争奪全日本高等学校弁論大会に、68期の渡部光貴君が出場し、見事全国優勝を果たしました。この大会は、原稿・音声審査を経て東日本予選大会の出場権を得、東日本予選の上位6名が西日本予選を通過した6名と共に全国大会に出場できるという、国内の高校生英語スピーチ大会の中でもハイレベルな大会で、1952年にイギリスのチャーチル元首相の支援のもとに始まった大会です。

### 5. 西表島研修旅行

高1(69期)沖縄ゼミの16名の生徒が冬休みに3泊4日の西表島研修旅行に行って来ました。参加者の中から2名の感想を主介します。

\*\*\*\*\*

自然との接し方

Y.U.

今回の3泊4日の西表島研修旅行で一番印象に残っているのは島民の自然との関わり方、考え方である。イノシシ猟で連れて行ってくれた中坂眞後さんは実は東京都出身で、一人暮らしをしていたが、「こんな自然を破壊するような生活をしていたら、自分たちの代で限界が来てしまうのでは？子供や、その次の世代にまで世界を残せないのではないか？」と考えて西表島に来たそうだ。

西表島では自然が人間のエゴで破壊させられないように、ルールがある。例えば刺し網漁では小さい魚は取らずに海に返したり、イノシシ猟では小さいイノシシが罠にかからないように工夫している。これらは次の世代でも自然からの恵みを受けられるようにするためである。

イノシシ猟での眞吾さんは自然に順応していたように見えた。例えば、山の中で匂いを嗅いでイノシシがどこを通ったのか、今年はどこら辺に縄張りを持っているのか、などを感じたり、山の中で自分の子供と場所を確認し合うために口笛を吹いたりなど、都会で育ってきた僕たちには真似できないようなことをたくさんしていた。また、眞吾さんは山の道やどこに罠をかけたか、どこをイノシシが通っているかなどをきちんと分かっている、自分は自由に動け、山の中に放り出されても生きていく自信があると語っていた。

僕たちは「自然を大切にしましょう」と、言葉だけで言われてきたため、自然からの恵みを深く考えず、当たり前のように受け取っていたが、今回のゼミ研修では努力して、自然を身近に、直接感じることができたため、自分の自然に対する関わり方や考え方を变える良い機会になった。このゼミを選んで本当に良かったと思う。

\*\*\*\*\*

## 西表島を守る『つながり』

R.I.

西表島が多くの自然に囲まれているのは周知の事実である。そこで現代の日本において未開発の地域である西表島がどうやって今ある自然を守ってきたのかに非常に興味があった。そして私はその理由を「島の人々が『つながり』を大切にしていること」だと考えた。

近年世界では乱獲や乱開発が頻繁に行われ人間の都合がよくなるように物事を進めてきた。そしてその『つながり』を完全に無視した自分勝手な行為が地球温暖化や絶滅危惧種の発生などの人間たちにとっても不利益な現象を巻き起こしてしまっている。

対して西表島ではなるべく自然の元の姿を壊さない、すなわち『つながり』を保つことを絶対的なこととしていた。一例として小さい魚を逃がすことなどが挙げられるが、さらにその考え方が顕著に表れた場面に私は3日目のイノシシ狩りのときに遭遇することができた。

未だ一体もイノシシがかかっているとき義雄さんチームの私たちは小さいイノシシが罠にかかっているのに遭遇した。そのイノシシは食べるに値しない小さなサイズだったので逃がしてし

まったのだが、もし私が義雄さんの立場だったとしても自然界のおきてにのっとって小さいイノシシを逃がせる気がしない。というのも、よこしまな考えにはなるが、観光というビジネスにおいてはイノシシを殺すほうが見逃すよりもよっぽどインパクトがあるからである。そんな中迷わず逃がすという判断を下した義雄さんは（彼にとっては当たり前のことかもしれないが）すごいと思うと同時に完全に西表島の自然という『つながり』を形成する一員となっていると感じた。そしてこの行動に至るまでの考え方が西表島の自然を守ってきたのだろうと思った。

## 27期有志シルゴ先生訪問記 (2018年9月22日)

堀内英樹 (27期)

27期の学年主任を務めていただいたマヌエル・シルゴ先生を有志21名で「鎌倉黙想の家」に訪ねました。1937年5月にお生まれの先生は、今年81歳になられました。イエズス会日本殉教者修道院である「鎌倉黙想の家」で毎日をござされ、信者の方々をお相手に霊操、週末黙想会、日帰り黙想会などで講話やミサを務められています。

鎌倉駅で待合せをしてタクシーに分乗しながら到着した21名は、にこやかに先生に迎えられて中に入り、食道に丸椅子を並べて座り、ビールやワインを片手に賑やかに歓談をしました。体調を崩されて手術を受けられた後は歩くことが若干不自由になり、お酒は辞めて食事の塩分も控えられています。シャープな頭脳とユーモアあふれるお話しぶりは当時と全く変わらないままで、20歳以上も若いこちら側が逆に元気をいただきました。



写真の解説(敬称略)

左から 藤岡学 中村中 山崎悦夫 石井知徳 鈴木正一 石川慶 黒岩理 村田恭夫 菅沼一男 堀田英夫 車田直昭 シルゴ先生 菊池裕明 濱田俊之 三部順也 丸澤滋 松村武人 長野敦 四元正弘 北風勝 堀内英樹 金子和

先生には、日本に着任された当時のことからお伺いしました。母国スペインから米国に渡り、語学の勉強をされた後、赴任先に決まった日本に向かわれました。サンフランシスコから日本までの航空券を渡されていたにも拘わらず、当時貧しかったイエズス会日本管区から「航空券を使わずこちらに渡すように」と指令を受け、聖職者が無償で乗船できた小型貨物船に乗り、船便で太平洋を渡りました。出航してゴールデンゲートブリッジをくぐった辺りで早くも船酔いになり、到着するまでの13日間ずっと船酔いが続き、甲板上で冷たい風に当たりながら何とかしのがれたそうです。

日本ではまず六甲教会のある兵庫に行かれ、その後には栄光学園に着任されました。田浦旧校舎から大船新校舎へ移転した頃のこと、正面ルートの切通しはまだ工事中で、ウルフ先生が「今日はどこそこまで道が出来た」と進捗状況を毎日報告されていたそうです。

参加者全員が順番に近況報告やシルゴ先生との思い出話をした後で、先生から「私には子供がいないので、あなたたちのことを自分の子供のように思っています。自分が出来ることは祈ることなので、毎日あなたたちのことを思いながら祈っています」というお言葉をいただき、感極まって涙ぐむ者もいました。27期は卒業してから5年ごとに同期会を開催していますが、卒業40周年に当たる2019年は、3月23日に開催することが予定されています。4年前の卒業35周年同期会の写真をお見せしながら先生をお誘いしたところ、早速その場でご快諾をいただき、半年後の再会を約束して黙想の家を後にしました。鎌倉駅にバスで戻ってからは、西口の居酒屋「六弥太」を貸切りにして懇親会を行い、懐かしい話に花を咲かせました。

## OB便り

### 新美 潤ポルトガル特命全権大使を訪ねて

菅野 洋 (22期)

2017年10月に22期の新美 潤君がポルトガルの特命全権大使に任命され、11月よりリスボンに赴任した。新美君は、外務省入省後、ロシア公使、タイ公使、ロスアンゼルス総領事等を経て、ポルトガル特命全権大使に赴任することになったので、この度、栄光の同級生である22期の3人が同君のご招待により、リスボンを訪ねる機会を得たので報告したい。

ポルトガルは、一年中ゴルフのできる温暖な気候で、しかも治安がよく、海に面しているため、海産物が豊富で、ワイ



ジェロニモス修道院の前にて。  
左から越智君、藤原君、新美君(ポルトガル大使)、菅野(筆者)

ンも美味しい。また、16世紀前半の種子島への鉄砲伝来以来古くから日本との結びつきが強く、日本語の中には、ポルトガル語に由来する言葉も少なくない。そのためか、ポルトガルは欧州の国の中でも親日的と言われるが、実際訪れてみるとそれを実感できた。

ポルトガルの首都リスボンの空港には、9月8日の夕方同期の越智重夫君、藤原俊二君と共に羽田からロンドン経由で約18時間かかって到着した。空港では新美君が迎えにきてくれていた。空港は、リスボンの中心部にある大使公邸から車で約20分と近かった。ポルトガルは、地中海性気候で大西洋に面しており、温暖だが年間雨量は少なく、車窓から見る街の風景はカルフォルニアと似た感じであった。

大使公邸についてのは、午後7時を過ぎていたが、夏時間のせいもあり、まだ十分に明るかった。大使公邸から、テージョ川が見え、大航海時代にはそこにあった港から、ヴァスコ・ダ・ガマ、マゼラン、そして栄光学園ともゆかりの深いフランシスコ・ザビエルらが出航したとのことだった。また、大使公邸からは有名なジェロニモス修道院の塔が見えた。夕食は、大使公邸付きのシェフによる地中海の幸を食材とした日本料理とポルトガルのワインに舌鼓を打った。

翌日は、リスボンより約30km西にあるユーラシア大陸最西端のロカ岬に行った。岬の突端の140mの断崖の上には、「ここに地果て、海始まる」と刻まれた石碑が建っていて、確かに「地の果て」を実感した。ロカ岬から約10km東には世界遺産のシントラがあり、ここにはベーナ宮殿、王宮がある。ベーナ宮殿までは、駐車場から徒歩で30分くらい急な登り坂を上がってゆかなければならないが、その宮殿は、イスラム、ゴシック、ルネサンス様式の混在した奇抜な外観を呈している。20世紀初頭まで、実際に国王が過ごしていたという。大使公邸に近いジェロニモス修道院は、現在の天皇皇后も訪れた欧州を代表するカトリックの修道院であるが、その中にあるサンタ・マリア教会は広大ではるか遠くに祭壇があり、ヴァスコ・ダ・ガマの棺が安置されている。ジェロニモス修道院は、天正遣欧少年使節団が訪れてあまりに壮大であるこ

とに感銘したと言われるが、まさにそれを感じさせるものであった。ジェロニモス修道院の隣の河岸沿いには、大航海時代を記念して1960年に作られた発見のモニュメント、1520年に河口を守る要塞として作られたペレンの塔がある。夜は、ポルトガルの民族歌謡の生演奏が聞けるファドレストランでシーフードを中心としたポルトガル料理とポルトガルワインを堪能した。観光以外では、あまり知られていないが、ゴルフコースもいくつか素晴らしいものがあり、新美君と共にラウンドを楽しんだ。ゴルフ好きの方にはポルトガルへ訪れる機会があれば、是非お勧めしたいと思う。また、栄光の卒業生でポルトガルへ訪れる機会があれば、是非大使館を訪ねてみられることもお勧めする。

## 渡名喜島

池添 博彦 (8期)

渡名喜(となき)島是那覇の西方50kmにある。フェリーは慶良間(けらま)諸島の渡嘉敷(とかしき)島や座間味(ざまみ)島の北側を抜けて渡名喜に向かう。このあたりの海は3月から4月にかけて、座頭鯨が繁殖のために回遊してくる。ホエールウォッチングの船もかなり出ているが、フェリーに乗っていても豪快にジャンプする鯨が見られた。

渡名喜には今まで3回訪れようとしたが、いつも宿が空いておらず、行くことができなかった。宿が少ないため、年度末は仕事の人が多くて混むとのことだった。

今回は、3月中は別の島を巡って、4月の初めを予約したら宿をとることができた。フェリーは渡名喜経由で久米島行きである。那覇港から1時間半でくの字の形をした島に着く。

周囲13キロ足らずの小島で、南と北は小山となり、集落は真中の平地にある。西側の港から東の浜まで家が続きしており、215戸、371名の住民がいるが、年々減少している。台風が多いので、家は地面を掘り下げて建っており、周りを福木で囲って風よけにしている。港の近くには道路より1.6mも低い処に建つ家がある。

集落の路は一軒毎に表と裏に東西に走る道があり、港からアガリ浜まで伸びている。数えてみると東西に12本の細い路があり、数戸の家を区切って南北の小路が7本あった。一つの区画に数軒並んでいる。各家は珊瑚を積み重ねた石垣があり、内側に背の高い福木が並んでいる。

集落の中はどの路もよく似ており、初めはどこを歩いているのか見当がつかず、宿の位置を探すのに苦労した。

島から本島に出ていく人が増え、無人の家や盆と正月だけ島に戻る家も多い。新しく建て直された家は、道路と同じ高さに埋め立ててコンクリート製になっている。

村の周りは島が広がっている。島人参と糯黍(もちきび)、

島バナナ、リュウキュウガネブ(野葡萄)が主なもので、他に西瓜や葱が植わっている。

宿で自転車を借りて島を巡ってみた。島の北

は146mの小山で、西森展望台がある。慶良間諸島が南東に見え、反対側の海は珊瑚礁が広がり、その沖に無人の入砂島がある。小島の周りは最良の漁場であるが、現在は米軍の射爆場となっており、ヘリコプターと飛行機が射撃の訓練をしていた。かなり大型の爆弾を投下しているようで、腹に響く音と、急降下した飛行機から機銃の連発音が聴こえてきた。爆音を共に砂煙が高く上がっている。射撃演習は休日以外毎日続けられており、静かな島だと思っていたので、残念な気がした。

展望台の途中に里御嶽(ウドウン)がある。御嶽は聖なる場所であり、村の中にも3つの拝所(殿(トウン))がある。一年毎に7名に神女(カンジュナ)がノロの家に集まり、神道を通じてトウンニンジュと呼ぶ人々と共に祭祀を行なう。祭礼は4日間続けられ、シマノーシ(島直し)ミチュマールガナシー又はシヌグ祭と呼ばれ、豊年、大漁、航海安全を祈るために行われる。殿は福木の林の中にあり、一坪程の拝所が置かれている。

村の端に小中学校があり、隣の公園に平和之党が建っていた。戦没者290名の名が刻まれている。比嘉(ヒカ)、上原(ウエバル)、渡口(トグチ)、桃原(トウバル)、宮平、大城、又吉(マタヨシ)、南風原(ハエバル)、平安山(ヘンザン)、仲村渠(ナカンダカリ)など沖縄特有の名が認められた。学校の生徒数は小学校17名、中学校5名、幼稚園6名である。

村の西に広がるアガリ浜は、白砂が2キロ続いており、南のアンジェーラ浜には亀が産卵に訪れる。珊瑚礁がかなり沖まで広がっており、引き潮になると貝やタコをとる人が出ていた。水の中を歩いていくと、白黒の斑になった海蛇がクネクネと泳いでいた。泳ごうと思ったが、満潮でも余り深くならず、泳ぐというより水浴びのような感じであった。アガリ浜の端に海に突き出た細長い崖があり、海蝕洞が2つ並んで開いていて、眼鏡岩と呼ばれている。

村は同姓が多いので、各々の家を区別するために、屋号が別に付けられている。屋号は門の外に記されており、イフヤーは魚が好きな人、エラブチャーはエラブという名の魚を好む人、カーヌメヌウィーチは井戸の前の家、コウチグァーは小さい幸地(幸地家の分家)ウーヤヌコウチは大家の幸地で幸地家の本家、アガリイーバルは東の上原、イリヌアバシーヤーは西の上原、アガリヌヘーバルヤーは東に住む



池添博彦氏

比嘉、イリジョーは西の上門である。

意味の解り難い屋号ではクチンダナカンダカリドゥンチ、ウィーバルヘーバラドゥンチ、ウィーバルヘーバラヤーグラー、ヘーヌトウクチャーグラー、イリヌウーブンヤー、ヘーバラーヌムックジャー、アガリヌヘーバルヤーがあった。それでもナカンダドゥンチは仲村渠殿地、ヘーバルは南風原、ウィーバルは上原、ヘーバルは比嘉、グラーは小で分家、ヘーヌは南側、トウクチャーは渡口、イリは西側、アガリは東側と部分的には理解できた。

屋号は本家や分家の別、家の方角、住居者の好みと姓を組み合わせてつけられている。村民同士は屋号で呼び合っているが、かなり訛りがあるので、私には判別し難かった。

港に島を詠んだ碑が建っていた。

「愛(かな)ち生(んま)り島渡名喜、若さたる時分やヌーチン鬼(う)マーン、生(う)まり島ゆたさ今どう知ゆる、島への旅さ幾度もシャシが、しばし遠のけば肝やサワジ」  
(愛しい故郷の渡名喜、若い時は何とも思わなかったが、生まれ育った島だと今は思っている、島へ帰ろうといつも思っているが、時が経つと心が揺さぶられて堪られない)

隣りに渡名喜の出砂節の碑がある。

「出砂のいべや、いづみたちもたへる、鬼子だちもたえる、とのちりえ子」

(出砂の蛸は、ヤドウイシを抱いて繁殖する、トナキの里は真鍋を抱いて、子孫繁栄している)

島の南側半分近くは山が連なっている。一番高いのは大岳176mで、やや低い大本田岳、コム岳、義中岳が続いている。今は村の周りだけが畠地であるが、昔は人口も多く、南と北の山の高所まで石垣が生まれ、段々畠になっていた。平地だけでは食料を賄えず、明治中期より山に畠を作り、芋や麦を作っていた。今は竹や木々が繁っているが、昔の石積みは残っており、遠目にも山肌に横に続く石垣の筋が見える。

村の福木は防風のため植えられたもので、二百年を越す木が多い。周囲が一抱え以上もあり、樹齢230年から260年の表示のある福木が多く見られる。福木は高さ8m位に真直成長するので、路の両側に葉を繁らせてトンネルのようになっている処がかなりある。

本州とは異なり、沖縄の魚は鮮やかな色のものが多い。ガーラ(かすみあじ)ンジャーアチ(くろがわあじ)カチュー(かつお)アーラミーバイ(やいとほた)シルイユー(くるだい)ガチュン(目あじ)ガラサーミーバイ(いしだい)シルイチャー(あおりいか)チュラウジュル(もとぎす)カブクラー(たかさご)ナカジューミーバイ(おじろばたはた)シチューマチ(あおだい)ゲンノーイラブチャー(なんようぶだい)と地方名で呼ばれている。

危険な海の生物として白黒斑の海蛇、オニダルマオコゼ、ゴンズイ、オニヒトデ、ガンガゼ、アンボイナ貝、ヒョウモンダ

コがいる。

村の路端に大きな丸石が置かれている。重さが十キロもある石でチキンと呼ばれ、昔若者が夜になるとこの石を地面に叩きつけて、悪霊を払っていた。以前は村中に五つあったが、今は一つしか残っていない。

家の門の処に、ススキの葉を締め形の形に折った柴差(しばさし)と呼ぶ魔除けや、水字貝をいくつも並べた家もある。水字貝は巻貝の貝殻に5つの細い突起が伸びており、水の字に似ているので、この貝を玄関や門に掛けて火事除けとする。沖縄や奄美諸島で見られる風習である。

島の行事として水上運動会がある。大正8年(1919)に始められたもので、戦争中の中断を除いて、平成30年で百回目を迎えた。アガリ浜に幼稚園、小中の生徒と村人が集まり、水中縄引きや障害物競走、騎馬戦などを楽しんでいる。ハーリ(海神祭)は、小舟による村の字毎の競争が行われる。カシキーは綱引きで村の東西で行われ、豊作を祈願するもので、島出身者も参加し、歌や踊りで夜更けまで祭りが行われる。

港の近くに役場がある。役場までの県道188号は僅か25mの長さで、沖縄で最も短い県道である。夜になると、役場前からアガリ浜に続く六百m程の道は、両側にフットライトが灯る。外灯は他に無く、両側は福木並木の闇が続いている。足元だけがほんのりと黄色に照らされていて、小径は出合う人もなく、静寂の中に砂地を踏む音だけが聴こえてくる。各家の明かりも、フクギに遮られて少しも見えない。

アンジェーラ浜に面して高い崖が続いている。昔は崖下一間程の歩道を開削していたが、今は海沿いに車道が出来ている。崖下の旧道には崩れ落ちた大石が並んでいる。落石の恐れと満潮の時は大波の危険もあり、昔は通るのも大変だったと思われる。

急坂を登って峠の遊歩道を巡ってみた。村花になっている河原撫子の花が群生していた。歩道から島の南に続く岩場や、崖に囲まれた小さな入江と砂浜を見ることができた。山の中には遭難した多良間島のタレーマ墓や、渡嘉敷島のアハラー墓があるが、ハブが出る危険性があるので、訪れるのは止めた。

一周道路の一番高い処に大本田(ウーンダ)展望台がある。久米島、粟国島、慶良間諸島が一望できるので、王府時代にはここに烽火台が置かれ、島から島へ狼煙によって信号を伝達していた。

展望台の入り口に、次の語が記されている。「くの島の心や海そして集落風致には、沢山の数々の思い出がある。寄る年次みに里心増さて、眺めていん飽きらん、わが生まれし島変るなよ、姿幾代までいん」島で生まれ育ち、島を離れ行った人の望郷の詞である。

## 同期会

### 一期生最後の同期会

前川 卓（1期）

本稿は、世話人（遠藤、熊岡、小島、野崎、前川）から一期生全員への報告を兼ねていますので、是非ご一読下さい。

さて、今回は一期生最後の同期会なので、万障繰り合わせて出席くださるようにとの呼びかけに対して、31名中20名の参加を得、2018年5月8日（火）、大船駅にほど近い「大船軒本店」で同期会を開催した。

多くが八十三歳となり、全員に往復はがきを出しての会開催が重荷になりつつある中での、最後というのは苦渋の決断だった。

この出席率は、体調が許す限りのほとんどの人が参加したといってもよいものである。遠方からは、広島から磯村君、富士宮から佐野君、埼玉から白石君、秦野から清水君らが皆元気な顔を見せてくれた。毎年アメリカから出て来ていた仁科君は、残念ながら体調を崩しての欠席。でも、秋には来日予定とのことなので大事には至らないだろう。

その他の出席者は、何かしら心配を抱えていても、一見元気そうに見えたのが、渋谷君、徳永君、高橋君、熊岡君、藤村君。

かなり努力して来場して下さったと思われたのが、西沢君、野崎君、遠藤君。

私には元気印に見えたのは、有賀君、江澤君、片山君、橋本君、原君、森君、小島（恒）君と前川。

一人一人近況を語り合いつつ旧交を温め、よき一時を過ごした。

栄光時代に沢山の楽しい歌を教わり、歌ったことを思いつつ、数曲を高らかに歌って解散した。

欠席の人の状況は、山梨県の安土君は出席予定だったが発熱のため急遽欠席。小島（明）君は所用あり欠席。松戸

君、野村君、石原君、内田君の欠席理由は不明だが、それぞれの体調が心配される。

その他、病気による欠席者は飯島君、内山君、小笠原君だった。祈りを込めてお大事にと申し上げます。

なお、昨年小島君が見舞ったときには元気そうだったという菱沼君は、残念なことに今年の1月5日に逝去された。謹んでお知らせします。合掌。

次に、その後の世話人会で取り決めたことをご報告する。

1. 今後の情報伝達、集まりの呼びかけはメールを中心に行なうこととする。現在、18名のメールアドレスが共有できている。メールの無い人は個別に情報ルートを定める。
2. 会計の小島君から、使用予定がなくなった残金121、449円の処置について提案があり、検討した結果、栄光学園の経営母体、イエズス会が最近開設した東チモールの聖イグナチオ学院はいわば栄光の姉妹校であり、今、資金を必要としていることから、同学院の基金に寄付することとした。小島君が東チモール在住の浦神父を通して手続きを進め、昨年10月5日に手続きを完了し、礼状と領収書を受領した。

今後の具体的計画については、3月14日の世話人会で協議することとした。

### 栄光学園四期同期会/2018 報告

鈴木宙明（4期）

「天地人ともにあれこれ騒がしかったこの一年でしたが、お元気ですか。今年の同期会は土曜日です。同期会開催を近隣の期は次回からやめにしたいと聞いています。四期生は、幹事や出られる人がいる限り、集まりましょう。」こんな



1期同期会(2018年5月8日)



栄光学園四期生同期会

案内状が届き、四期生同期会は10月20日(土)の午後、昨年と同じ《ホテル横浜ガーデン》で開かれました。会費も6000円と同じ、昨年の出席人数は31名でしたが、返信締切日の出席通知はなんと35人でした。

ところが、覚悟はしていたものの当日朝のドタキャンも含め「出られなくなった」連絡が続々、結局会場に現れた四期生は25人でした。近況返信も会場で回覧され、みんなの昨今に思いを寄せ、語りあい、懐かしみました。今年是在米三人のうちからの出席はなく、はるばる仙台と奈良からの二人に加え、土曜が休診日で出席できた現役医師がしばらくぶり出席の面々でした。

さいわいというか、この一年は同期生の訃報に触れることもなく過ぎ、献杯ナシで開会。スピーチは小倉君の『フォス先生と教育勅語』と藤野医師の『歩け。喫うな。』だけ、美味珍味のブッフェ料理と呑み放題のアルコールを愉しみながらの歓談に終始しました。(それでも会場隅の喫煙コーナー利用者は4、5人はいました。)

雑談の中、トピックス(?)をいくつか。

Q:「養老は来ないねえ。会いたいねえ。だいぶヒマになったみたいけど。」

A:「返信は《当日は京都にいます。済みません。いつもありがとうございます。》」

「箱根の《養老昆虫館》か、どこか《養老の滝》で同期会を開けば会えるかも。」

「栄光卒の有名人、ダントツが養老、現在二番が隈研

吾だよ。」

Q:「栄光の新築校舎を見に行った人、いますか。」

A:「挙手10人足らず。「新校舎の寄金者銘々板には、四期生もかなり並んでいるよ。」

Q:「栄光学園も同窓会も《MEN FOR OTHERS》をスローガンにしているけど、四期生は、田浦時代に、このフレーズに触れたかなあ。」

A:「知らないなあ。聖書の言として記憶はあるけど。フェリスでは昔から使ってるね。」

Q:「往復葉書なのに、返信未着がこんなにいるのかあ。どうしているのかなあ。」

A:「読み／書き／投函が自分一人ではできない状態なのかなあ。」

「メールやFAXも、以前より使い勝手が悪くなってきているしなあ。」

皆で校歌とパイレーツソングを歌って、写真を撮って散会。二次会は9人。終始和やかに、傘寿を越えた元気な老翁たちの今年の同期会でした。

## 「栄光7期会」報告

齋藤 肇 (7期)

平成最後の「7期会」は秋も深まる10月20日(土)45名が

参加し6年連続となる横浜中華街の老舗萬珍楼本店で開催されました。

本年も望月伸一郎校長、稲田順一先生に参加して頂きました。

7期生は1959年(昭和34年)皇太子御成婚の年に栄光学園高等学校を卒業し来年は記念の60年となります。

「7期会」は1981年(昭和56年)に代表幹事及能茂道君が立上げ、以来毎年継続して開催され多くの同期生が参加しております。

現在では80人がエントリーするメーリングリスト「E-7」も構築され日々情報交換を続けております。「7期会」ははじめ新年会、忘年会、春秋のゴルフコンペ、花見、楽伍会、音楽会、講演会、飲み会等多岐に渡り交流・交際の輪を広げております。現在継続しておりますのも母体作りに尽力した及能君のお陰と感謝しております。

毎年「7期会」で総合司会を務める荻原佳紀君から「本年は台風、地震、猛暑が相次ぎ高齢者にとっては厳しい平成最後の夏となりましたが猛暑を乗り切った多くの方々に参加しました」との開会宣言で開宴となりました。

「7期会」開催通知で他界が判明した小島康臣君、坂田晋一君、鈴木祐次君と物故者24名に黙祷を捧げました。

齋藤肇から「本年は120名の方にご案内を差し上げ出席45名、欠席51名、未返信21名、逝去3名」と報告致しました。年々2～3名の物故者が出ている中で6年ぶりに45名の大台に達しました。欠席された方々の近況報告も致しましたがご本人またはご家族が体調を崩され不参加となられて

いる方が多く、一日も早く回復し来年は再会出来ます事をお祈り致します。

続いて奥田斐規君が「気張らず一日一日を大事にまた出席者の健康を祝し」乾杯の音頭を取りました。乾杯後はしばしの時間各テーブルごとに再会を祝し賑やかに歓談が続きました。

宴もたけなわのころ望月校長、稲田先生からご挨拶を頂きました。望月校長からは「最近校長を呼ぶとお金の無心をすると言われるが、今日はお金の話はしません。今年の「7期会」では7期、77歳、70周年と祝意を述べましたが今年東大合格者77人の朗報が飛び込みました。更に科学甲子園全国大会に優勝し、野球部も決勝まで進み大活躍でした。7期生には来春の新校舎見学をご提案致します」と締めくくられました。望月校長の強いリーダーシップのもとで母校栄光学園が文武両道で輝きを放っているのは学園発展に尽力されている望月校長のお陰と敬意を表します。

望月校長から34年前稲田先生のもとに副担任として入校しましたとのご挨拶の後稲田先生にバトンタッチしました。

稲田先生は「大勢集まり驚いています。まだ古い期から同期会の声が掛かるが91歳で教職員最高齢者」となりましたと元気でお話されました。

続いて代表幹事及能君から「新校舎寄付が他の期より多かったのは7期会開催のお陰」と長年の労をとった感慨を述べられました。

出席者のスピーチではまだ黒髪の野球部OB松井謙典君が指名され「50周年でも久しぶりの出席でスピーチの指



栄光7期会 (2018年10月20日)



2018年栄光学園10期同窓会(第21回)  
於 横浜ベイシェラトンホテル 2018. 10. 12

10期同窓会 集合写真(名前入り)

名を受け、今回もそれ以来ですので来年からは毎年出ます」との一言がありました。

更に今夏35℃以上の猛暑の中一人で3回も野球部県大会応援に駆けつけた石川俊克君から「決勝戦後半で慶応に敗れたのは両校の応援歌の有無でした。栄光にも応援歌が欲しい」との要望が望月校長に出されました。

引き続き金澤洋君から小児ガンにより16歳で他界した栄光66期の作曲家加藤旭君紹介の後、何時もの通り「EIKO HIGH FOR EVER」を全員で合唱しました。

宴の最後に中村司君から「78歳はもうではなくまだ78歳です。これからも元気で88歳を目指しましょう」と閉会の言葉があり散会となりました。

予定のプログラム終了後記念撮影を行いました。

2019年の「60周年記念大会」は10月19日(土) 萬珍楼本店にて開催致しますので皆様との再会を楽しみにしております。

## 10期同窓会報告

本山駿一郎 (10期)

平成30年10月12日(金)10期同窓会が横浜ベイシェラトンホテルで行われた。二年毎の会で、今回は第21回である。これまでは、夕食会であったが、今回は試みに午後1時スタートの昼食会とした。幸いにも61名の方々の出席を得て盛会であった。

会の冒頭、故人となられた菊野俊熙先生、同期の松橋智孝君のご冥福を祈り黙祷を捧げたあと宴が始められ、そこかしこでグラス片手に「オオ！お久しぶり！」と談論の輪がつく

られた。

ドイツからこの会に合わせ帰郷された中島大志郎君は、ドイツに居を構え永年武道教室を運営されているが、スピーチで昨今の政治情勢でメルケル首相の力に陰りがみられる・・・といった話のほかこれまで勉強を続けてきた神学に関し「70歳を超えてから新たに神学博士号取得をめざし著作に取り組んでいる」と、昔と変わらぬ温顔で語り中島君らしい充実した生活ぶりが披露された。

その後、有志の男声合唱団「Chor Gloria」(山本信リーダー以下9名)により「Gaudeamus」(ドイツをはじめヨーロッパで広く愛唱されている歌)、「アヴェマリア」(アルカデルト作曲)など4曲が美しいハーモニーで歌われた。

また、朝海和夫君から有志の方々による「町田君のお見舞い」の様子が伝えられた。

宴の終わりに恒例の「千里の波濤」「EIKO High Forever」を全員で高らかに歌い、全員写真(福田祐郎君撮影)を撮ったあと、約2時間の宴を閉じた。

考えてみれば2年後の会では、ほとんど皆「喜寿」を迎えていることになる。各人の「健康第一！」と「病に伏せている方々の快方」を祈りつつ、再会を約し散会した。

次回幹事は、近藤一郎、藪田碩哉、高井明の諸兄がやってくる。

皆さん、どうもありがとうございました。

(幹事 青木邦夫、信濃詔司、本山駿一郎)

## 12期同期会報告

恩師4人も参加されて

石井邦夫 (12期)

2年ぶりの12期同期会は、2018年11月17日、横浜駅西口のホテルキャメロットで開かれた。参加者は、お招きした恩師4人と同期生63人の総勢67人。開会の午後4時前には、早くもウエルカムドリンクも始まっていた。

司会・花井勝三君の開会のことばに続いて、永久幹事団の代表・佐藤孜君があいさつ。亡くなった同期生15人に黙祷を捧げた。

恒例、佐竹信一幹事の乾杯の音頭で、会は始まり、飲んだり、食べたり、だべったり…と会場は一気ににぎやかになった。

腹がくちくちくしたところで、丸山忠生君の司会で、恩師のスピーチとインタビューに。

掃除の監督でお世話になったカーリー先生は、「生徒たち」に「**optimistic, smiling, perceptive**」の3語をプレゼント。「今は、四谷のSJハウスで隠遁生活」と締めくくった。

稲田順一先生は「栄光の時の面影のある人も、全くない人もいる。まだ73歳だ。73歳は若い」と檄を飛ばした。幼稚園の園長は85歳の時、娘さんに引き継いだという。

青木利通先生は「栄光で私より年上の人はいなくなった。さみしい気がする」と心情を吐露され、聖書講座を二つ持っていると言われた。

雑誌記者を目指していた境野勝悟先生は「栄光に就職してよかった。皆さんに育てていただいた」と何と私たちにお礼の言葉。そして、大学時代、富士山でJ.ピタウ神父に出会ったことが、栄光で教えることのきっかけになったというエピソードを公表された。このあと、中1の授業で習い、12期生



名調子の境野先生



先生方（カーリー先生、青木先生、稲田先生）



12期同期会

の身にしっかり沁み込んでしまった「奥の細道」の唱和が始まった。

お声を掛けた Doyle 先生は、急な所用で来られなかったのは残念だった。

と、ここで同期生がスピーチ。行きついたところがスポーツ写真の、それも高校野球という岡沢克郎君。「心理面を撮りたい」といい、いまは、あの清原和博を追っているとか。樋口淳君は「未だに大学を出られない」と冗談めかして言い、シベリア抑留問題を追っている富田武君はテレビに取材された時(世界の村「こんなところに日本人」)のエピソードを披露した。

やがて舞台には「常任のソング・リーダー」、深澤茂行君。その指揮で、恒例により「千里の波濤」と「Eiko High Forever」を田浦の校舎を思い浮かべながら、大合唱した。

そのあと、閉会の言葉(花井君)、記念撮影と続き、2時間余の出会い、あっという間に幕を閉じた。なお名残尽きないメンバーは場所を移して二次会に、さらに3次会までという強者もいた。

## 14期同窓会 卒業50周年と古希記念

新井 隆 (14期)

卒業50周年を記念して同窓会を開こうという話が延び延びになっていましたが、2018年10月17日に古希のお祝いを兼ねて横浜駅西口のホテル・プラムにて開催することができました。

2018年の7月から幹事7名で手分けして、定年退職した人の名簿見直しから始めることにしました。ちょうど65歳から70歳の方が退職して、メールアドレスが法人ドメインから個人用ドメインに変わっているケースが多く、2ヵ月間の調査ののち、郵送組30名を含め、連絡先判明140名、最終的には48名の参加者希望者を集めることができました。当日、急なキャンセル者が出て、42名となりました。恩師では、梅津先生にご参加いただきました。

17日当日は16時開催と言うことで集まり、予定時刻に林好君の手慣れた司会でスタートし、15名の逝去者に黙祷を捧げ、梅津先生のご発声で乾杯をし、8~10人ずつ丸テーブルを囲みながら久しぶりの再会に昔話や近況報告へと、飲みながら食べながら進んでいきました。

仙台から仕事を途中で切り上げて駆けつけてくれた吉田克己君、ウーンからは国際的な業務の合間を縫っての天野之弥君の参加もあり、盛り上がりました。

定期的に年に数回は同期のゴルフコンペを開催している永島栄一君からは、コンペへの参加勧誘、大島弘尚君からは同窓会費の納入催促に限りなく近い自動振り込み勧誘や、大船新校舎の紹介があり、新旧、遠近、疎遠の溝を埋める情報交換が、一対一や、グループでと絶え間なくあちらこちらで自然発生的に行われました。今回は、卒業以来の参加と言う人もかなりいて、一人ずつの近況報告に聞き入りました。いろいろと異色の経験をたどってきた人もいて、興味は尽きない時間がずっと続きました。

同窓会本部からの50周年同窓会開催への補助も利用で



14期同期会(2018年10月17日)

きましたので、飲み物、料理は好きだけ取れました。それにしても、まだ70歳になったばかりの胃袋に収まる量に対してはちょっと不足気味で、ゆっくりペースの人には、やや行き届かなかったかも。

6時過ぎには、料理もデザートとコーヒーばかりになっていたもので、頃合いを見て早めに集合写真撮影へと進み、6時半に解散しました。

この日には所用で参加できなかった西倉君は、翌日、卒業以来の再会を濱田君と果たしたとのこと。連絡先住所リストがお役に立って、これは幹事冥利に尽きます。

幹事:井出城二郎、海老澤猛、大島弘尚、  
永島栄一、高垣洋太郎、林好、新井隆

## 20期同期会(前期高齢者突入記念)

奥田 基 (20期)

2018年11月17日、5年ぶりに開催しました。前回は、還暦記念。会場は、19期平山先輩のホテルプラム。横浜駅から徒歩圏内ですから参集も容易。午後2時から5時まで1次会、その後、同ホテル内1Fラウンジにて2次会。参加者は、先生方3名(稲田先生、石川先生、迫先生)20期58名。

幹事団(高桑、小島、根岸、奥田)は、2017年8月のオール栄光ゴルフ会(20期のグロス連覇)の流れから2018年3月に27期とのゴルフ対抗戦を行った際に開催を決意、6月に

幹事団招集(+若林、片山)して日程・会場まで相談しました。更に幹事団には、関根、三浦、梅田、篠原(拓)塩田も入ってもらいました。

会場設営(受付、パネル(卒アルの拡大コピー)設置など)して2時からの開場でしたが、1時40分ころから三々五々参集、2時時点では、マイナス10名程度で盛況となりました。隣は美魔女コンテスト(?)の表彰式でしたので、コントラストがくつきり。

若林MC、関根同窓会副会長、高桑の回りで式を進行。先生方のご挨拶、乾杯。前回から始めた物故者の紹介と黙祷では、顔が浮かんで涙ぐみそうになりました。その後は、テーマ別スピーチがあり、同窓会の運営、栄光ゴルフ会20期が強い話、医者グループからの健康の話、今後の経済情報、各部活の報告、首相官邸での話など歓談が続きEiko High Forever 合唱、記念撮影、先生方のお見送り後、高桑の三本締めで1次会は終了。

2次会は、1階のラウンジ貸し切り飲み放題(ボージョーレーヌボーあり)で、2時間歓談。最後は1本で締めて解散となりました。

反省としては、・時間が少し余った、・高齢になり腰が持たないせいか! 椅子の数が足りなかった、・先生方も立ちっぱなしでご苦労をお掛けした、と思います。

また、メールのみで連絡をしたのですが、65歳になると退職で会社アドレスの連絡はできなくなることも問題でした。

以上反省も少しありますが、大盛況の同期会となりました。なお、次回は2年後を予定。連絡到達できなかった20期



20期同期会(2018年11月17日)

生は、20期同期会幹事団アドレス、あるいは同窓会事務局までぜひ連絡をお願いします。

## 27期 vs 28期ソフトボール対抗戦報告

石川英一 (28期)

中村洋一郎 (27期)

### 今年もサヨナラ負け、来年こそは

2017年に行われた27期対28期のスポ体のソフトボールの対戦は、1勝1敗でした。今年こそ、気持ちよく勝利したいと思い、10月14日に再度挑戦することになりました。

2018年は、毎週のように週末に大型の台風が接近し、当日も天候が心配されましたが、朝まで降っていた雨も日中には上がり、晴天に恵まれました。

野球部OBの紅白戦も同日予定されていましたが、朝までの雨で、野球場のグラウンド状態が悪いため人数が揃っていないものの中止となってしまいました。そこで、ソフトボールの第一試合は比較的グラウンドの状態の良いフィールドで、野球部紅白チームと27期、28期がそれぞれ対戦することになりました。

28期と野球部の試合では、5回まで3-3、逆転に次ぐ逆転で緊張した試合になりましたが、終盤は、野球部OBの打撃が勝り、3-7完敗でした。野球部OBのランナーの方は、きわどい帰塁の際に、昔の感覚でヘッドスライディングをして、肩を脱臼してしまうハプニングがありました。そこは、さすが栄光。フィールドには2名のお医者様が参加していましたので、その場で外れた肩を入れてしまいました。

さて、27期対28期の対戦は、28期が先行で始まりました。1回に28期が高田先生の満塁ホームランも絡め5点先制しました。その後の27期の攻撃は、ランナーを出すもヒットが続かず、得点は1点でした。4回までは、28期が逃げ切れるかもしれないと思いました。

そこは、毎年ソフトボール大会を実施している27期。フォアボールのランナーが出ると、畳みかけるように攻撃をしてきました。

最終回は、28期の2点リードで迎えましたが、ボールに目が慣れてきた27期に連打され、緊張感のあった試合も、あっさり逆転サヨナラヒットを打たれてしまいました。

同日行われた28期の同窓会の2次会では、やはり、練習しなければとか、抑えのピッチャーが必要だとか、27期に勝つためには、飛距離の出るバットを買おうとか、議論百出でした。

さて、27期の皆様が来年も胸を貸していただけるかどうか。まずは、グラウンドを予約し、練習して上達したのち、来年に臨みたいと思います。(28期 石川英一)

### スポーツ交流による同窓会

今回のソフトボールは、平成29年5月に実施した「27期vs28期対抗スポ大」のリベンジマッチとして、28期の挑戦を受けて企画されました。27期は高校卒業以来、継続的に栄光フィールドでのソフトボールを行なってきましたが、懐かしくて楽しいこのイベントに28期を巻き込んだ形となりました。

さらに今年は、野球グラウンドのコンディション不良という要因があったからではありますが、野球部OBの皆さんも参加してレベルの高い試合が繰り広げられました。特に、花井さん(12期)の攻守にわたる全力プレーや、若手OBの華麗



2018年度27期vs28期ソフトボール対抗戦は27期の逆転サヨナラ勝ち

かつ堅実な守備など、在校中のスポ大の熱気を思い出させていただきました。

栄光の広大なグラウンドは、現役生のみならずOBにとっても貴重な財産だと思います。今後も同期での催しにとどまることなく、期を越えて様々なスポーツでの交流が深められれば、より充実した同窓会活動になるのではないかと、この印象を持ちました。(27期 中村洋一郎)

## 28期同期会開催報告

岩野 宏 (28期)

去る10月14日(日)、大船のチャイナダイニング千馬にて、金子好光前校長先生をお招きし、28期同期会を開催しました。同期の出席は31名でした。例年は横浜のホテルで開催していましたが、本年は、年齢も顧みず昼間に母校に集い、27期の先輩方とソフトボール対抗戦を行うという勇気ある企画が設定された(詳細は別途)ため、久々の大船開催となりました。

ここ数年は、同窓会の28期幹事でもある石川君や高橋君が用意してくれた映像等で、着々と進む新校舎の様子を見るというプログラムが定番化しつつありました。しかし、新校舎も無事完成し、母校化学科教諭を務める高田君の案内で同期による新校舎見学会も実施したため、今年は、幹事が欠席者からの近況報告を紹介するとともに、出席者全員に近況報告をお願いしました。

30人以上が順次話をした訳ですが、さすが栄光学園卒業後まもなく40年になろうとする面々だけに話す内容も多様でした。孫の誕生を報告する者から、今年話題の人、テニスプレーヤーの大坂なおみのサインの入ったバッグをわざわざ持参し、いかにそのサインをゲットしたか熱弁を振るう者など、会場からの質問、野次との掛け合いで進んだ近況報告は予定を大幅に超過し、お店に時間延長をお願いせざるを得なくなるほどの盛り上がりを見せました。

そして、お定まりのEiko High Foreverを、他のお客さんへの迷惑を顧みず(お店にはお断りしました)歌って散会、来年の再会を約しつつ、ソフトボールの疲れを引きずりながら家路につく者、二次会に繰り出す者など、それぞれに散っていきました。

さて、10年以上にわたり、28期は毎年秋に同期会を開催しています。これは前述の石川君が同期のメーリングリストを作成してくれたことに負うところが大きいです。28期が社会人になった頃はまだインターネットなどなく、同期会の開催案内はもっぱら葉書に頼っていました。幹事の負担は大きく、同期会の開催も数年に1回程度でしたが、今は、同期会の最後にかつての高3A～D組から1名ずつ翌年の幹事を選出

し、毎年同期会を開催するという形が確立しています。

毎年開催となると希少価値が薄れるのか、ここ数年出席者は30名前後と決して多くはありませんが、自分が出席するかしないかにかかわらず、毎年開催されていることに妙な安心感を覚える、との声もあります。中学高校時代を美化するつもりはありませんが、あの時期を共有できる人に対しては、社会人としての袴を脱いで素の自分を出せるような気がします。不思議なもので、仕事でお会いした方が、話をしているうちに栄光の先輩や後輩だとわかると、同じバックグラウンドを持つ方として一種の親近感を感じてしまうのは、筆者一人ではないでしょう。

善くも悪くも自分の人間形成に少なからず影響を及ぼした、自分の帰る場所の1つとして、栄光学園を今一度意識したひとときでした。その意味で、恩師がご高齢となり、既に鬼籍に入られた方もいらっしゃる中、今年はずいぶん金子先生お一人しかご出席頂けなかったことは寂しい限りでした。最後となりましたが、毎年スケジュールを調整して頂き必ずご出席下さる金子先生に改めて御礼申し上げるとともに、本年の同期会幹事メンバー及び毎年変わる同期会幹事を常にサポートしてくれている同窓会28期幹事及び母校の高田先生に感謝申し上げます。

## 29期同窓会 『祝 アルカラ神父 89歳！』

前田真孝 (29期)

中路喜之 (29期)

師走初日(12月1日)、晴天で穏やかな土曜日の午後3時に、同期生のひとりのお母様を含む13名が、アルカラ先生が現在お住まいの上石神井のロヨラハウスに集まった。13名の中には、卒業以来初めて先生と再会する仲間もいた。また、当日の朝スペイン出張から帰国し、そのままスペインのお菓子をお土産に駆けつけたメンバーもいた。

一次会は、幹事の開会宣言の後、アルカラ先生にご挨拶をいただいた。その中では、在学中には聞いたことがないような先生の若い頃の話、栄光学園の話等いろいろな話題に触れられた。中でも、フォス先生の話はとでも興味深かった(みんなの感想)。ユーモアを交えながら、ときにわれわれに同意を求め(←授業ではおなじみの「アルカラ(先生)節」)、1人1人の顔を見ながら話される先生を前にして、もう30有余年前のことなのに、その間は、ロヨラハウスの応接室が大船の教室に変わった。また、授業のときに生徒に発言を求め、そのひとつひとつにコメントをされた。われわれからは、国内外どこに行っても、なぜか「栄光生」はお互いにわかり、

「栄光生」であるとわかると直ぐに打ち解けて仕事がうまく行くこと、英語がとても役に立ったことが数人から報告され、栄光のつながりの強さを感じた。

アルカラ神父は12月9日が誕生日で、2018年には89歳になられる。最近、ベッドの上で過ごすことが多いようで、会の直前には体調を崩され、先生用に新調された車椅子にも乗れないときがあったようだが、当日はわれわれの心配を一蹴するほどにお元気であった。55歳・56歳のかつての教え子を未だに気にかけて下さると同時に、われわれが元気で仕事を頑張っていることを聞いて本当によこんで下さっていた。ちょっと早いお誕生日に花束を贈り、シュークリームとエクレアでお祝いした。われわれも「89歳を目指そう！」と気合がはいった！

先生の体調を考えて1時間ほど・・・といわれていたが、先生のご様子から30分ほど延長された。先生の体調がよかったことが何よりであった。帰りがけには、先生とのツーショットに収まったり、先生と固い握手を交わす姿が見られた。久しぶりの恩師との再会を思い思いに楽しみ、再訪を約束してロヨラハウスを後にした。

そして、武蔵関駅近くの居酒屋『与作』で二次会。仕事などで後ろ髪を引かれながら数名が帰り、二次会に残ったのは9人。お店の厚意で、30分延長してもらったが、2時間半の間、折角の飲み放題・料理もそっちのけで、U君の芸能界の話、クラブ転籍の話等二次会だからの話(?)を含め、硬軟取り混ぜての話に花が咲いた。

師走突入の忙しい時期に集まってくれた仲間感謝する。また、アルカラ先生に会いたいと参加して下さったI君のお母様、仕事の前にもかかわらず一次会で幹事以上に動いてくれたM君に、この場を借りてお礼を申しあげる。また先



アルカラ先生のご様子

約等のある数名からも、「次回はぜひ」とのコメント付きで欠席の連絡を受けた(報告)。

おそらく、先生にお目にかかり、仲間と会って、一瞬「(現役)栄光生」にタイムスリップし、元気が湧いたと思う。毎年、同窓会への出席は初めて！というメンバーがいて、細々とでも続ける意義を改めて感じた。

来年も、おそらく晩秋か初冬になると思うが、29期の集まる機会を提供すべく委員として頑張る。できるだけ早く日時を決定して、EACONなどで告知するので、手帳に「同窓会」と予定して欲しい。

50代半ばの坂を越した中年親父の我々だが、卒業してもうすぐ40年になるこの歳だからできること、29期でやりたい企画、こういう開催方法なら参加しやすくなる…など意見があったら、29期委員まで声をお寄せください。

元気で、また来年お会いしましょう！

## 51期同期会報告

石田明久 (51期)

2018年12月29日(土)に忘年会を兼ねた51期同窓会が行われました。会場は近年恒例となっている新橋の白金魚 (URL: <https://r.gnavi.co.jp/g733912/>)



アルカラ先生とご一緒に



51期同期会(2018年12月29日)

の貸切。時間は19時から22時までの3時間。幹事は坂本君、吉光君等。参加者は幹事事前発表で秋山、浅田、石田、磯部、石原、魚住、内田、垣内、片桐、勝井、加藤(幹)、河村、熊谷、小林(航)、坂本、寺尾、土井、当ヶ森、西山、羽生、平田、三田村、道浦、宮本、横山、吉光、若林の27名でした(敬称略)。

開始の19時少し前に会場に入った際はあまり人は集まっていませんでしたが、開始して1時間ほどでおおむね集まり、同期の近況の話で盛り上がりました。私は培養肉ベンチャーに取り組んでいる同期の近況を聞いたり、結婚に向けて悩む同期の相談に乗ったりしていました。そうこうしているうちに3時間はあっという間に過ぎ、最後に出席者全員で記念撮影をして、来年の再会を祈願して解散となりました。

このように2018年も幹事方の尽力によって無事開催されたのですが、持続可能な同窓会開催のための仕組みが今後の課題として見えてきました。51期の同窓会は卒業後毎年行われており、参加者数は2012年の53名を特別として毎年おおむね30名以上でしたが、今年は30名を切りました。子育て中の同期の増加、地方・海外在住で東京に行きづらい、そもそも連絡が届いていないなどの要因が考えられますが、幹事になりうる方々の時間・体力があるうちに仕組みづくりを行えたらと考えています。

もし忘年会の案内が届いていない51期生がいましたら、51期のML、または同窓会事務局まで連絡していただければと思います。

最後に、2018年6月でこの世を去ることになった同期の松井保明さんのご冥福をお祈りいたします。

## 7年ぶりの再会

山口 陽 (55期)

2018年9月22日、ハマホールイアス(横浜市西区)にて、55期の同窓会が開催されました。

55期全体での同窓会は7年ぶりになります。30歳を迎える節目の年であり、6年間同じ校舎で過ごした人たちの近況がどうなっているのか、個人的にも強く興味を持っていました。

同窓会には、70人を超える同級生が参加しました。筆者にとっては、2007年3月の卒業以来顔を合わせていない人にも多数会うことができ、そのような人たちの近況を聞くのは非常に有意義でした。顔を合わせて話をすると、「この前結婚した」と言われて衝撃を受けたり、「子どもが生まれた」と嬉しそうに写真を見せられたり、ということも多くありました。卒業から11年半という長い時間が流れたことを実感することとなりました(ちなみに私ははまだ独身で、いつのまにか同級生に差をつけられてしまったなあ、と感じてしまいました)。それぞれ多種多様な仕事で活躍されているという話も聞き、刺激を受けることができました。また、当時の校長である関根悦雄先生や、当時の副校長である迫嘉邦先生をはじめとする先生方もいらっしゃり、現状報告をすることができたのも嬉しく思いました。

今回の同窓会では、「おもいだす」をテーマにして、参加者をグループ分けしたうえで、グループ対抗のクイズ大会が実施されました。問題は、まずは55期が栄光学園在学中に放送されていたテレビドラマの放送局を当てるクイズでした。

次に、栄光学園の担任の先生を思い出すクイズ。栄光学園といえば中間体操ということで、ラジオ体操第二の映像を途中で止めて、「次はどんな体操でしょう」というクイズ(正解発表の後にはみんなで中間体操をしました)。55期が2001年2月に受験した、栄光学園の入学試験の算数の問題を解いて答えを出すクイズ(取り組んでみると難しく、当時はよくこんな問題が解けたなあと思いました)などです。非常にバラエティに富んだクイズの内容で、優勝グループのメンバーなどには、各種豪華賞品が送られました。ちなみに筆者は、他の人に送られた「丹沢サイダー」(栄光ヒュッテが丹沢にあるということで)1箱から、1缶だけ拝借して飲ませてもらいました。非常に爽快感のある、良いサイダーでした。

筆者は別件のため、会が終了すると失礼せざるをえませんでした。多くの方は、名残惜しく二次会として別の店に行ったそうです。積もる話もたくさんあったことでしょう。

参加する前は、55期の人たちの近況を知るのが(なぜか)何となく怖いなあという気持ちも、率直にあっていました。しかし、実際に行ってみると、非常に満足感の残る、素晴らしい同窓会であったと感じます。

このような同窓会を企画してくれた幹事の人たちに、この場を借りて深い感謝の気持ちを伝えます。また、今回は来られなかった55期の人たちにも、ぜひ会うことができたいと思います。

最後になりましたが、今はもう再会がかなわない西野究君に、この記事を捧げます。

## 支部等の活動

### 栄光同窓カトリックの会10周年記念講演会のご報告

花川泰雄 (11期)

栄光同窓カトリックの会(世話人代表 菅田栄一 5期)主催の10周年記念講演会が10月8日の午後、カトリック雪ノ下教会で開催された。

テーマは「福音宣教とメディアの役割」、講師パネリストは、松谷信司(キリスト新聞社社長)、南條俊二(13期、元読売新聞社論説副委員長)、土屋至(13期、元清泉女学院中高教諭)の3人。

福音宣教の手段として新聞・雑誌・小説など紙媒体の役割が縮小するなか、ツイッターやFBなどSNSの存在が無視できなくなってきた。そこでネット社会に対応した福音宣教のあり方について、積極的にネットを活用している3人のパネリストに実践活動を紹介していただき、参加者との間で質疑応答を行った。

松谷社長はプロテスタントでキリスト新聞の電子化やツイッターで若者を惹きつけており、南條氏と土屋氏はカトリックのネットマガジン、「カトリック・あい」や「AMOR-陽だまりの丘」を運営し、信徒だけでなく一般読者を啓発している。

当日は、20名のOBと横浜教区地元の信徒10名が参加し活発な質疑が出された。

参加者:前川(1)、東海林(2)、梅津(4)、鈴木(4)、菅田(5)、福井(6)、吉田(9)、花川(11)、南條(13)、塩谷(13)、土屋(13)、前山(13)、新井(14)、石渡(14)、大島(14)、林(14)、梁瀬(14)、青柳(16)、島崎(26)、岩城(26)(一般参加者名は省略)

講演内容や当日のレジメについては、事務局で記録保管しているので、必要な方は同窓会事務局へお申し出ください。

なお、栄光同窓カトリックの会では年2回、講演会などの企画を実行しています。開催案内を必要な方は、メールを花川または同窓会事務局にお寄せください。

(事務局長 花川泰雄)



栄光カトリックの会 10周年記念講演会

### 第26回JJHAF杯4校サッカー対抗戦

高橋正明 (19期)

平成30年10月14日(日)、今年も元気に栄光、広島、上智福岡の各サッカー部OBが六甲グラウンドに集合し、第26回4校での交流戦に汗を流しました。

例年の手順に習い、神戸市内での前夜祭にて再会を喜



JJHAF杯4校サッカー対抗戦 記念写真(2018年10月14日)

び、翌日には和気藹々の中にも闘志を秘めて真剣勝負の対抗戦。そして笑顔の表彰式および親睦会を重ね、再び来年の開催地、福岡での再会を誓いました。ちなみに、優勝カップは一足早く西の広島へ移動しました。

■前夜祭:平成30年10月13日(土)夜

場所:三ノ宮駅前「にっころや」

■対抗戦:10月14日(日)10:30～

結果は、①広島 vs 栄光+福岡泰星、②栄光+福岡泰星 vs 六甲、③広島 vs 六甲の総当たり3試合で広島が優勝。その後、シニア主体の合同交流戦を満喫しました。

※得点勘定は、今年もJJHAF独自のローカルルールを適用し、40未満のゴール=1点、40歳代=2点、50歳代=3点、60歳代=5点とし、PKは年齢に関係なく1点。

※50歳以上は赤パンツを着用し、着用者以外からのチャージ、タックルはファウル。

※参加最高齢者は、栄光佐藤晃一氏(10期、75歳)でした。

■懇親会 - 表彰式:10月14日(日)16:00～

場所:阪急六甲駅前「六甲苑」

毎年同じような手順で進行する4校対抗戦ではありますが、不思議なことに毎年メンバーはかなり入れ替わっているにも拘わらず各チームの存在感に違和感が無く、更に年を追う

毎に顔見知りが増え合同チームになってもすぐに打ち解けられる感覚があります。ここに4校のサッカー部OB同志の絆を感じます。

試合前の六甲湯川代表の言葉にも、四半世紀続いた事にも驚きですが、これからもこの絆を深めながら各校のメンバーが更に若返りながら親睦を深められるよう意識しようという趣旨が述べられていました。迷うことなく、若い世代に引き継ぎながらいつまでもこの対抗戦が繰り広げられることを望みます。

そして、来年は福岡開催が決まりました。他の3校と比べて創立が一番遅い兄弟校のためOBの年齢にも差がありますが、若い福岡泰星OBも他校の長老達の後押しを受けて精一杯幹事校として頑張る覚悟を目の当たりにして、栄光から一番遠い開催地ではありますが、また来年も楽しみです。

野球部OBの集い

坂本永造 (17期)

松井孝志 (17期)

2018年10月14日(日)、野球部OB会は野球大会および懇親会よりなるOB野球の集いを開催しました。

前年10月15日(日)に初めて企画した際は、あいにくの雨でやむなく野球大会を中止し懇親会のみを行ったいきさ

つがあり、今年度は企画の段階から相当気合が入って当日に臨みました。

しかし、当日朝雨は上がったものの、グラウンドコンディションが悪く使用不能という判断に至りました。ところが、既に各自所属するチームのユニフォームに着替えた30余名の参加者は帰る気配はまったくなく、花井会長が前監督の壱岐先生とも相談した結果、本グラウンド横の練習コート(空き地)の移動フェンスを片付け、何とかベースボールゲームをやることにしました。

47期川上選手の号令の下、ランニンググラウンド2周(この段階で明らかにへばった者複数あり)、準備体操、キャッチボール、トスバッティングを行った後、黄色チームと水色チームに分かれ、3回制のミニゲームを行いました。本グラウンドのインフィールドエリアよりも狭い場所ではありましたが、こ

の日のために、人知れずバッティングセンターで自分の打力を確認してきた者や新しくグラブを購入した者もあり、全員嬉々として投げ・打ち・捕り、かつ走っていました。結果は8対5で黄色チームが勝利しましたが、みんな本当に野球が好きな仲間であることを再認識しました。

昼食は、栄光の皆さんなら喜んで配達させていただきますという大船軒の弁当を全員で食べましたが、これも在校当時、練習後に毎回のように立ち寄り、鯨の押寿司をつまみながら反省会を行った成果だと思いました。

当日は27期と28期が恒例のソフトボール大会を陸上グラウンドで行う予定であり、彼らより親切にも一緒にソフトボールをしましょうとのオファがあって、午後は急遽27期、28期、黄色チーム、水色チームによる四つ巴のソフトボール対抗戦を行うことになりました。

ボールは替わったものの、午前中のトレーニングの成果で、野球部OBは好守、好打、好走塁の連続でした。また、黄色チームにおいては、かつてソフトボールの好選手であり現在もコーチをされている22期名執選手の奥様による、宇津木元監督顔負けの叱咤激励もあり、強豪27期チームに対して最後まで善戦しました。

結果は、黄色チーム対27期は9対16(5回制)で27期の勝ち、水色チーム対28期は8対3(6回制)で水色の勝ち、黄色チーム対水色チームは14対3で水色の勝ちとなりました。



ソフトボールの後仲良く記念撮影



記念撮影。また来年会いましょう

16時から昨年同様聖堂ホールにて、老岐先生・吉田先生を含め34名参加の下で懇親会を行いました。

29期佐野さんの司会で始まったパーティーは、12期花井会長の挨拶、13期須須木さんの乾杯音頭の後、昼間の熱戦の余韻もあり、当初から盛大に盛り上がりました。途中歓談も一段落したところで、花井会長の解説による写真鑑賞その1(当日のプレー集)が行われ、来年こそは本グラウンドでプレーしたいという気持ちを強く持ちました。写真鑑賞その2では、母校チームの今年の春・夏・秋の大会の活躍を振り返り、これから行われる秋の関東大会への期待が大いに膨らみました。

また、前監督の32期老岐先生からは現在の学園と栄光生の様子についてお話いただき、現監督の吉田先生からは、過去の試合結果や現在のチーム状況について丁寧に説明いただきました。

その後、OB会より試合球2ダースと医療キットの贈呈を行った後、全員で「Eiko High Forever」を合唱しました。(余談ですが、この時Eiko High Foreverを歌ったことのない学年があることが判明して皆で驚きました)

最後に、秋の関東大会の日程紹介、横浜弁護士会との対抗戦、OB懇親ゴルフ会、正月野球、そして来年の野球部OB会野球大会の予告があり、参加者全員での記念撮影の後、18時半に閉会し解散となりました。

今回の野球大会および懇親会の開催にあたり、リーダーシップを発揮して取り纏めをしていただいた花井会長、その他ケータリングの手配や看板設置、ボール寄贈、医療キット寄贈等の準備をしていただいた、20期吉永さん、23期小林さん、25期星山さんに感謝申し上げます。

## 茅ヶ崎栄光同窓会 新年会 報告

金子 和 (27期)

茅ヶ崎栄光同窓会は1月20日(日)に新年会を開催しました。今年は15名の参加申込みがあり、吉澤直樹(32期)さんが急な発熱のため残念ながら欠席されましたものの、14名が一堂に会する盛会となり、平成31年の新年を喜び合いました。

若い53期の横谷俊孝さんと、平塚から26期の岩城秀彦さんが初めてご参加くださいました。栄光学園同窓会

会長の山田宏幸(30期)さんは、昨年の新年会に引き続き、今年もご参加くださり、茅ヶ崎栄光同窓会の盛り上がりにお力添えくださいました。ありがとうございます。

本会は「茅ヶ崎を楽しむ同窓会づくり」を心掛け、そのひとつとして「茅ヶ崎 美味しいおみせめぐり」を企画し、新年会・総会懇親会の会場を毎回毎回かえながら、美味しい食べ物・飲み物を囲み、楽しい時間を過ごしております。今回は、茅ヶ崎駅南口から昨年春に閉場した茅ヶ崎丸大魚市場跡に向かう途中の角地のかわいらしい2階建てのお店、若いオーナーシェフさんが腕を振るうチェレステ(celeste)でイタリア料理を堪能しました。目立たないこじんまりしたお店で、ご来場の何人かは前を通り過ぎて行ってしまうほどでした。オーナーさん曰く、店名の「チェレステ」とは碧空を意味するイタリア語で、茅ヶ崎の海と空をイメージしたそうです。市内で高い評価をうけている伊右衛門農園の野菜をはじめ、市内外の厳選された素材から作られる料理は、シェフさんが薦めるイタリアワインに引き立てられ、豊かな味わいでした。

会の中、昨年5月から本会会長に就かれたゴルフ好きを自称される伊藤紀一郎(22期)新会長から本会初のゴルフ会の新企画が発表されました。4月21日(日)、富士グリーンヒルゴルフコース、午前8時1分より3組の計画です。その場で多くの出席者が参加の意向を示しました。いつか茅ヶ崎からオール栄光コンペに大選手団を送り出せる日が来るかもしれません。

ご参加の皆様からは近況の報告と今年の抱負をいただきました。一部を紹介します。

山田宏幸(30期 栄光学園同窓会会長)

茅ヶ崎栄光同窓会の皆さま、新年会にお声掛けいただき、ありがとうございました。美味しいお食事と楽しい皆さんのお話で、とても心地よい有意義な時間を過ごさせていただきました。今後の貴会のさらなるご発展を祈念しつつ、同窓会全



茅ヶ崎栄光同窓会(2019年1月20日)

体の一層の活性化にもご協力いただけますよう、どうぞよろしくお願いたします。

#### 横谷俊孝(53期)

産業医科大学を卒業後、東海大学で研修を行い、現在は産業医をしております。会社都合で兼務していた他拠点に日曜移動のため、これまで参加したいと思いつつ断念しておりましたが、今般兼務範囲が狭まったこともあり、ついに初参加させていただきました。4月からは現職の三菱日立パワーシステムズから三菱重工に転籍します。実は53期の同窓会委員(理系A組担当)でもありますので、これからは毎回参加させていただきたいと思っております。今年の抱負は嫁探しです。どうぞよろしくお願いたします。

#### 吉澤直樹(32期)

新年会開始直前の発熱、インフルエンザ(A型)罹患によるものでした。欠席は残念でしたが、諸先輩方にご迷惑をお掛けしなくてよかったです。身体のあちこちにガタがき始めましたが、フルマラソンを走り切る体力を回復させ、微力ながら「歩く大会」のお手伝いのできたら…と思っています。

#### 酒井伸雄(2期)

十八年もの昔、中公新書として世に出た拙著「日本人のひるめし」、席上で話した通り、若干加筆の上、吉川弘文館から同名の歴史書として刊行される。こいつは春から縁起が良いわい。

#### 山口洋一郎(13期)

数年来続けてきた懐かしい美しい茅ヶ崎海岸を取り戻す「NPO海岸づくり推進機構」(<https://kaigan-chigasaki.com/>)

の活動の発表の場として本年3月23日(土)午後2時より茅ヶ崎市民文化会館練習室兼ミニホールにて「茅ヶ崎海岸の未来を考えるシンポジウム」を計画しました。同窓の皆様を含め、大勢の方と一緒に考えていただきたいです。3月18日(月)～25日(月)の期間に茅ヶ崎市役所本庁舎1階市民ふれあいプラザにおいて同趣旨のパネル展を催行します。こちらへもお寄りください。

#### 島崎裕之(26期)

来年で還暦を迎えます。長男はこの春就職なのですが、次男が昨年大学に進学したばかりなので、しばらくは稼がねばなりません。健康第一と思い、今日も辻堂から4km歩いての参加です。

## 第16回 逗葉栄光同窓会

#### 松岡 晃 (14期)

2月3日・日曜日午後5時から、葉山町「海狼」にて逗葉栄光同窓会が開催されました。今回は参加者22名でした。

菱沼前同窓会長(17期)の司会のもと、田中会長(10期)の開会の挨拶、小菅会計担当幹事(18期)による会計報告が承認されました。引き続き小菅氏による「二子山山系のイノシンと道迷い」という講演がありました。二子山に数年前に自己の狩猟の趣味のために5頭のイノシンを放った人がいて、それが繁殖してしまい駆除に困っていること、二子山ハイキングで道に迷い救助の要請が増えている現状の報告がありました。

徳永大先輩(1期)の乾杯の御発声で宴会に入り、斉藤先生(23期)による学園の近況、山田現同窓会長(30期)による同窓会の現状報告、近隣の茅ヶ崎支部から島崎氏(26期)の挨拶、浅尾氏(31期)の挨拶があり、その後全員にマイクが回りました。

宴会終了後、恒例のEiko-high Foreverの大合唱、最年少の松岡氏(45期)の三本締めで午後7時30分にお開きになりました。本会は2年に一度の開催ですので、2021年に皆さん元気にお会いできることを楽しみにいたしております。ご多忙のことは存じますが、若手の会員諸氏の積極的な参加をお待ちしております。



逗葉栄光同窓会(2019年2月3日)

## 歴史文学散歩

### 秋めく南下浦ぶらり旅 (2018年9月27日)

竹内正敏 (13期)

2018年9月27日(木)朝10時京急三浦海岸駅に18人の卒業生と卒業生の父兄2人が集合してウォーキング「南下浦ぶらり旅」が始まりました。今回の新加入は上田義男氏及び私竹内(両人とも13期)でした。懇切丁寧な案内冊子(三春勝正氏作成)が配られ、今日のコースを確認しました。先ずバスに乗って15分「剣崎」に行き、剣崎バス停から三浦台地を歩いて江奈湾に面した「キリシタン灯籠」を見学、次いで台地の中腹に在る「福泉寺観音堂」を拝観して台地の北斜面に在る「福寿寺」を拝観、金田漁港のレストランで昼食。その後は金田湾に沿ってバス道路沿に出だしの三浦海岸駅に戻るコースです。往路はバスを利用し、復路はバス道路沿いを戻るのは「何時でも疲れたらリタイヤ可能」という事でよく吟味されたプランです。斯様なプランを作成された世話役三春氏の配慮が伺えます。世話役を筆頭に参加者は「期待される卒業生像」のように思えました。私の世代の社会科の教師は小泉先生でした。歴史文学ウォーキングに私が参加してこうして報告を書いている事実に驚いて居られる事でしょう。

福泉寺境内には「人雷戦士の碑」が建っていて、三春氏が説明されました。先の大戦の末期海軍は「特攻兵器/水雷に特攻兵を乗せて敵艦を撃沈させる兵器」を開発連合国の



円福寺山門

艦隊が沖合を通過するようであつたら海岸洞窟に隠しておいた水雷兵器使って撃沈し、祖国を守ろうとしたモノです。人雷戦士の碑は建長寺正統院でも拝観しました。碑には特攻隊の名は「桜花」陸軍の「同期の桜」を想わせる名でした。碑の最後に良寛さんの辞世の句が刻まれていました。

「散る桜 残る桜も 散る桜」

狂気は悲しいモノです。特攻兵の命が散ってから74年、私も70歳を越えました。激動の時代を生きてきたこととなります。

次回は11月28日、行き先は都下駒込だそうです。栄光学園在学中は往々にして「皆の足を引く存在であった私でしたが、卒業して漸く先頭を歩ける様な気がしてきました。



南下浦ぶらり旅(2018年9月27日)

## 六義園～駒込富士～吉祥寺周辺を散策 (2018年11月28日)

近藤二郎 (12期)

平成30年11月28日10時駒込駅前に集合したのは3期から22期卒の14名及び夫人と卒業生母親3名の17名にて会の幹事14期大島先生と案内役6期三春氏先導で先ず六義園訪問しました。

柳沢吉保が元禄15(1702)年に築園した回遊式の大名庭園で東京都の庭園として綺麗に保存維持されており丁度モミジ紅葉の時期で太陽を透かして見える濃赤から薄黄まで種々の色彩を堪能しました。庭内にあるつつじ茶屋と呼ばれるあずまやで昼食、ここはつつじの古木材を柱と梁に用いて(内南側の3本の柱はサルスベリ古木)建てられ戦災を免れた希少な姿を確認できました。

六義園を後にし東洋文庫建物を視察、その後古墳跡の起伏を用いて建てられた駒込富士神社に急階段を上り参詣しました。

散策の途中駒込カトリック教会に立ち寄り光り輝くステンドグラスに感動しました。

さらに本郷通りを南下し吉祥寺にて八百屋お七・吉三供

養塔、榎本武揚の墓碑、二宮尊徳の墓碑等に参拝しました。吉祥寺の大部分は東京大空襲で焼失し残った山門(1802年建造)と経蔵(1804年建造)の彫刻は一見の価値ありでした。境内に梅檀(せんだん)の巨木あり可憐な花は5月半ばに咲くそうで訪問時には1.5cm程のなつめ似の緑色の実が枝もたわわでした。手に取り口にした1人が「ワツ甘〜い!」と感嘆漏らしましたが1人がグーグル検索「サポニン含む毒含有し多く食すると死に至ることあり」を伝えると慌てて口を濯ぐ一幕ありました。歳を重ねてなお旺盛な好奇心見習いたいですね注意は払いつつですね。

そして目赤不動尊を訪問、江戸五色不動尊のひとつで都内には地名にもなってる目白、目黒のほか目青、目黄不動尊も残っているとのこと。

最後に訪れたのは白山神社で毎年6月中旬にはアジサイ祭りが開催されることで人気のある神社で境内及び隣接する公園には約3,000株のアジサイが植栽されています。

白山神社にて散策終了し14:30解散となりました。



六義園にて記念撮影(2018年11月28日)

## 2019年度 歴史文学散歩コース

### 三春勝正 (6期)

#### ① 久里浜の史跡と花の国巡り

実施日:5月21日(火)

集合:JR久里浜駅 10時

昼食:お弁当or外食

解散:15時頃 距離:約7km

久里浜駅(JR)～吉井貝塚・怒田城址～内川新田～八幡神社～正業寺～慈眼院・茅山貝塚～長安寺・日伏不動～蓼原古墳～久里浜天神社～久里浜花の国(昼食)～傳福寺～住吉神社～ペリー公園～夫婦橋・新田開拓記念碑～久里浜駅(解散)

久里浜は三浦半島第一の大河、平作川河口に開けた町です。その両岸には古くから人が住み着き、吉井貝塚など現代に残っています。その後古墳時代から近代まで、時代ごとに、古墳、山城、新田開拓とその時代の遺跡を残しています。その中でも幕末のペリー来航は久里浜の名を全国に知らせた出来事と言えるでしょう。今回そんな歴史の残る久里浜の遺跡を訪ねて、昔を偲ぶ歴史散歩を楽しんでいただこうと思います。この時期ポピーが綺麗です。

#### ② 初秋の葉山文学散歩

実施日:9月26日(木)

集合:JR逗子駅 10時

昼食:お弁当

解散:15時頃 距離:約6km

JR逗子駅～バス乗車…向原下車～葉山町図書館～西東三鬼邸跡～堀口大学邸～横光利一借家跡～森戸神社(西東三鬼・堀口大学碑)(昼食)～名島(名島の亀)～柴崎海岸～宮城道雄旧宅～高橋是清邸跡～旧團琢磨邸～葉山一色海岸(堀口すみれ子)～旧太田治子宅～一色・大浜海岸～葉山御用邸～エビ島(加賀乙彦)～葉山公園(解散)～バス停(葉山)

9月になれば、どことなく秋の気配が感じられます。秋風が吹き、虫の鳴き声が、聞こえ出すころ、人は誰でも詩人になり、またじっくり文学書などを読みたくなるものです。葉山に住んでいた文人、あるいは作品の中で葉山を取り上げた作品は数多くありますが、今回はその作品から、葉山を愛してやまないと思われる作家の作品を取り上げ、その作品が書かれた場所や、作品の中に出てくる場所をご案内します。

#### ③ 晩秋の歴史の道金沢道を歩く

実施日:11月27日(水)

集合:京急弘明寺駅 10時

昼食:お弁当

解散:15時頃 距離:約5km

京急弘明寺駅～弘明寺～乗蓮寺～住吉神社～井土ヶ谷事件跡～大光寺～清水ヶ丘公園(昼食)～北向地藏～本陣跡～金沢横丁～保土ヶ谷駅

最初に訪れるのは、弘明寺ですが、この寺は、横浜最古の寺です。本尊の弘明寺観音は今から1300年近く前、僧行基が勅命を得て、天下泰平祈願のため全国を巡錫して、この地の浄域に草庵を作り、一刀三礼(一刀刻む毎に三度礼拝する)の至誠を尽くして彫刻祈願されたのが、現在の本尊十一面と伝わります。

次に訪ねる北条政子が開基となった乗蓮寺には、政子自身が彫ったと伝わる尼將軍坐像が残されています。

#### ④ 名刹池上本門寺から桜の文士村を歩く

実施日:2020年3月31日(火)

集合:池上駅(東急池上線) 10時

昼食:お弁当持参

解散:15時30分ごろ距離:約6km

池上駅～池上本門寺(五重塔・力道山墓)～川端龍子記念館～龍子公園～馬込桜並木～熊野神社～尾崎四郎・宇野千代旧宅～熊谷恒子記念館～出世稲荷神社～湯殿神社～郷土博物館～西馬込駅

現在の大田区、馬込、山王、中央の一带には、大正末期から昭和時代の初期にかけて、多くの文筆家や画家・書家が居住し、互いに交流しながら芸術活動を展開していたようです。そのため、のちにこの一带を「馬込文士村」と呼ぶようになったようです。その生活の様子は尾崎四郎の朝日新聞連載「空想部落」に、又榊原潤の「馬込文士村」に生き生きと描かれています。

以上2019年度も年四回の歴史文学散歩を計画いたしました。時間を作って興味のあるコースには是非ご参加ください。

#### <お願い>

悪天候等による中止、順延など決定は前日夕方までに決定いたします。また連絡のために、まだはっきり予定が決まらない人でも、参加の可能性のある方は出来るだけ連絡先メールアドレス、または電話番号を同窓会事務局にお届けく

ださい。メールの方には各コース実施前にリマインドサービスもさせていただきます。事務局休みの場合は三春まで直接お問い合わせください。

携帯電話 090-8854-2087

メール [ktmiharu@khh.biglobe.ne.jp](mailto:ktmiharu@khh.biglobe.ne.jp)

## ● 訃報(2018年10月1日以降判明分)

### 先生

人見紀一先生(国語)2018年8月23日

### 卒業生

青木 憲一氏	(14期)	2017年1月23日
岩 沢 滋氏	(12期)	2017年12月27日
坂 田 晋一氏	(7期)	2018年4月18日
梅田耕太郎氏	(46期)	2018年6月9日
松 井 保明氏	(51期)	2018年6月20日
濱 中 聡至氏	(44期)	2018年7月29日
中 村 靖氏	(2期)	2018年7月31日
鈴木 祐次氏	(7期)	2018年8月4日
宇都宮俊明氏	(24期)	2018年8月27日
児 島 康 臣氏	(10期)	2018年9月30日
平 山 裕 氏	(2期)	2018年11月3日
向 後 和 人氏	(5期)	2018年11月4日
赤 井 明 郎氏	(5期)	2018年12月7日
菱 沼 久 三 郎氏	(1期)	2019年1月5日
浅 原 和 夫氏	(14期)	2019年1月23日
磯 部 穆 氏	(12期)	2019年1月27日
松 尾 暢 洋氏	(10期)	2019年2月6日
伊 東 一 雄氏	(12期)	2019年2月11日
鈴木 博 昭氏	(2期)	2019年3月2日

謹んでご冥福をお祈りいたします。

## ● お知らせ

### オール栄光ゴルフコンペ2019のお知らせ

母校70周年を記念してリニューアルしたオール栄光ゴルフコンペですが、今年も開催します。このご案内の主な目的は、まず皆さんのスケジュールに、8月25日(日)開催のゴルフコンペを加えていただくことです。開催規模、申込み要領、競技形式等は昨年までと同様の予定ですが、詳細は後日改めてご案内させていただきます。参加されたことがある方も、まだ参加されたことが無い方も、多くの同窓生・関係者の皆さんのご参加をお待ちしております。

◆ 開催日時:2019年8月25日(日)

◆ 開催会場:よみうりゴルフ倶楽部

<http://www.yomiurigolf.com/login/index>

〒206-081 稲城市矢野口3376-1

TEL.044-966-1141

小田急線 新百合ヶ丘駅より、タクシー15分 京王相模原線 京王よみうりランド駅より、タクシー5分

※賞品・賞金等のご寄贈・ご寄附を広く募っております。ご協力賜れます場合には、同窓会事務局までご一報を頂戴したく存じます。よろしくお願ひいたします。

● 次号(第92号):2019年10月発行予定。

### ● 投稿歓迎

同期会や支部のイベント報告、個人の体験記などの投稿を歓迎します。標準サイズは文章1,200文字程度+写真1枚。同窓会事務局宛てメールまたは封書でお送りください。

メールアドレス: [admin@eikoalumni.org](mailto:admin@eikoalumni.org)

住所:(本号第1頁にあります)。

### ● 同窓会ホームページのご案内

同窓会ホームページにおいては、会員の皆様からご連絡いただいた投稿記事をタイムリーに掲載、また写真もカラーでご覧頂くことができます。その他、同期会、支部会等の開催案内などもホームページ上でご案内しておりますので、どうぞご覧ください。イベント告知等の掲載依頼は同窓会事務局までお願いします。

<http://www.eikoalumni.org/>

### ● 編集後記

本号に掲載した2018年12月15日開催の栄光OBフォーラム「ロシア・ワールドカップは世界を変えるか!」は栄光学園小講堂で開催し、フォーラム閉会後は2階に上がって聖堂ホールでの簡単な懇親会という流れで、コンパクトなフォーラム開催ではありましたが、ご講演内容もパネルディスカッションも大変興味深い内容で、出席された方は満足されたのではないかと思います。土曜の午後ということでもあり、何人か現役の生徒さんも講演を聞きに来たようです。サッカー部のメンバーでしょうか。卒業生のイベントに紛れ込むチャンスなどなかなか無いでしょうから、感想を聞きたかったところですが、閉会後に見失いました。

私事ではありますが、仕事でロシアの企業と関わった際には何かと対応の遅さに戸惑う場面もあったのですが、プライベートで観光旅行に訪れた際には、個人旅行であっても公共交通機関の利用や食事、買い物であまり困ることなく、スムーズに旅行ができたことで、ロシアの印象が少し変わったことがありました。今回のOBフォーラムの講演をうかがい、私にはロシア・ワールドカップの観戦に訪れた外国からの訪問者をもてなす「お国柄」についての実感が湧きました。

さて、本号は平成最後のThe Eiko Alumni発行となります。元号が変わったら表紙等に平成〇〇年と残らないようにしようと思い確認しましたが、どこにも元号表記は無いようでしたので安心しました。